

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年6月27日
【事業年度】	第74期（自平成25年4月1日至平成26年3月31日）
【会社名】	都築電気株式会社
【英訳名】	TSUZUKI DENKI CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 日浦 秀樹
【本店の所在の場所】	東京都港区新橋六丁目19番15号
【電話番号】	03(6833)7777（代表）
【事務連絡者氏名】	財務経理統括部長 石丸 雅彦
【最寄りの連絡場所】	東京都港区新橋六丁目19番15号
【電話番号】	03(6833)7777（代表）
【事務連絡者氏名】	財務経理統括部長 石丸 雅彦
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 都築電気株式会社 大阪支店 （大阪府大阪市北区中之島二丁目2番2号） 都築電気株式会社 名古屋支店 （愛知県名古屋市中区錦二丁目13番30号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 最近5連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移

回次		第70期	第71期	第72期	第73期	第74期
決算年月		平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月
売上高	(百万円)	86,386	96,284	98,241	100,651	110,670
経常利益	(百万円)	896	877	640	827	2,065
当期純利益又は当期純損失 ()	(百万円)	656	3,172	348	446	982
包括利益	(百万円)	-	3,081	427	947	1,245
純資産額	(百万円)	29,948	28,268	27,461	18,045	18,984
総資産額	(百万円)	64,961	65,215	66,641	64,036	70,048
1株当たり純資産額	(円)	1,078.07	1,111.55	1,090.04	1,513.02	1,572.53
1株当たり当期純利益金額又は 1株当たり当期純損失金額 ()	(円)	29.87	137.54	13.86	34.37	81.79
潜在株式調整後1株当たり当期 純利益金額	(円)	-	-	-	-	-
自己資本比率	(%)	36.2	43.3	41.2	28.2	27.1
自己資本利益率	(%)	2.8	12.3	1.3	2.0	5.3
株価収益率	(倍)	9.9	5.5	-	12.1	5.6
営業活動によるキャッシュ・フ ロー	(百万円)	2,561	2,506	889	7,511	4,321
投資活動によるキャッシュ・フ ロー	(百万円)	687	727	371	3,820	211
財務活動によるキャッシュ・フ ロー	(百万円)	1,486	315	664	6,597	288
現金及び現金同等物の期末残高	(百万円)	14,873	12,138	11,981	16,784	13,016
従業員数	(名)	2,335	2,321	2,307	2,304	2,292

(注) 1 売上高には消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額につきましては、潜在株式がないため記載しておりません。

また、第72期は当期純損失が計上されているため株価収益率についても記載しておりません。

3 連結会社における平均臨時雇用者数は、従業員数の総数の100分の10未満であるため記載を省略しております。

(2) 提出会社の最近5事業年度に係る主要な経営指標等の推移

回次	第70期	第71期	第72期	第73期	第74期
決算年月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月
売上高 (百万円)	61,074	61,359	64,001	89,079	97,094
経常利益 (百万円)	927	466	226	827	1,519
当期純利益又は当期純損失 () (百万円)	788	296	7,069	623	715
資本金 (百万円)	9,812	9,812	9,812	9,812	9,812
発行済株式総数 (千株)	25,387	25,677	25,677	25,677	25,677
純資産額 (百万円)	17,974	19,014	25,752	16,459	17,391
総資産額 (百万円)	39,145	40,072	58,433	55,342	60,919
1株当たり純資産額 (円)	824.08	747.66	1,022.21	1,380.06	1,440.55
1株当たり配当額 (円)	8.0	8.0	8.0	8.0	12.0
(内1株当たり中間配当額) (円)	(4.0)	(4.0)	(4.0)	(4.0)	(4.0)
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額 () (円)	35.90	12.87	281.02	48.02	59.58
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	45.9	47.4	44.1	29.7	28.5
自己資本利益率 (%)	4.4	1.6	27.5	3.0	4.2
株価収益率 (倍)	8.2	-	2.7	8.6	7.7
配当性向 (%)	22.3	-	2.8	16.7	20.1
従業員数 (名)	1,183	1,181	1,370	1,367	1,377

(注) 1 売上高には消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額につきましては、潜在株式がないため記載しておりません。

また、第71期は当期純損失が計上されているため株価収益率・配当性向についても記載しておりません。

3 提出会社における平均臨時雇用者数は、従業員数の総数の100分の10未満であるため記載を省略しております。

2【沿革】

- 昭和7年5月 電話交換装置の販売、設置工事、保守等の事業を行うため都築商店を創立。
- 昭和16年3月 都築商店を改組・改称して都築電話工業株式会社を設立。
- 昭和20年9月 戦災で荒廃した東京の通信設備の復興のため、本社を名古屋から東京に移転。
- 昭和22年11月 本社を東京都品川区小山台に移転。
- 同 年12月 大阪出張所（現大阪支店）設置。
- 昭和29年5月 名古屋出張所（現名古屋支店）設置。
- 昭和36年6月 商号を「都築電話工業株式会社」から「都築電気工業株式会社」に変更。
- 同 年同月 本社を東京都港区麻布新広尾町に移転。
- 昭和37年7月 本社を東京都港区新橋に移転。
- 昭和38年1月 当社株式を社団法人日本証券業協会に店頭登録。
- 昭和39年4月 本社を東京都港区浜松町に移転。
- 昭和42年12月 富士電機製造株式会社（現・富士電機株式会社）と共同出資により東新電機株式会社（旧・都築電産株式会社（現・都築電気株式会社））を設立。
- 昭和44年10月 コンピュータの保守業務を専業とする株式会社都築シーイーセンター（現・都築テクノサービス株式会社（現・連結子会社））を設立。
- 昭和45年4月 株式会社都築ソフトウェア（現・連結子会社）を設立。
- 昭和47年4月 本社を東京都港区海岸に移転。
- 同 年9月 東新電機株式会社の増資を引き受け、同社を都築電産株式会社（現・都築電気株式会社）に社名を変更。
- 同 年10月 電子部品販売業務を専業会社の都築電産株式会社（現・都築電気株式会社）に移管。当社はPBXを中心とした通信機器の販売、工事、保守を行う通信部門とコンピュータの販売、システムエンジニアリングを行う電子部門の二部門となる。
- 昭和58年9月 原株方式による第三者割当増資をロンドンで行う。
- 昭和61年1月 当社株式を東京証券取引所市場第二部に上場。
- 昭和62年2月 本社を東京都品川区大崎に移転。
- 平成2年9月 都築電産株式会社株式を社団法人日本証券業協会に店頭登録。
- 平成3年10月 商号を「都築電気工業株式会社」から「都築電気株式会社」に変更。
- 平成7年7月 本社を東京都品川区小山に移転。
- 平成11年12月 都築電産株式会社株式を東京証券取引所市場第二部に上場。
- 平成16年8月 本社を東京都港区新橋に移転。
- 平成22年12月 株式交換により都築電産株式会社（現・都築電気株式会社）を完全子会社化。
- 平成24年2月 都築電産株式会社を吸収合併。

3【事業の内容】

当社グループは、当社、子会社14社及び関連会社1社で構成されております。その主な事業内容は、情報ネットワークソリューションに係わるサービスの提供であり、各種ソリューションの提案とそれらに係わるシステムの構築とソフトウェアの開発ならびにそれらに対するメンテナンスサービスとサポートサービスを一貫して提供しております。また、電子デバイス等の販売ならびに技術ソリューションを行っているほか、環境関連設備の請負保守、車載関連設備の販売及びメンテナンス、人材派遣等を行っております。

当社グループの事業内容及び当社と関係会社の当該事業に係る位置付けは、次のとおりであります。

なお、次の2部門は「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項」に掲げるセグメントの区分と同一であります。

(1) 情報ネットワークソリューションサービス事業

各種ソリューション

IT基盤

プライベートクラウド、企業ネットワーク、ユニファイドコミュニケーション、コンタクトセンタ、スマートデバイスに係るソリューション

業種・業務ソリューション

製造、流通、生鮮流通、医療、介護・福祉、公共・文教、金融分野に係る各種業務ソリューション

サポート&サービス

IT基盤運用サービス（運用サービス、サービスデスク、ネットワーク監視サービス、ネットワーク診断、セキュリティサービス、LCMサービス）

<主な関係会社> 都築テクノサービス(株)、(株)都築ソフトウェア、ツヅキンフォテクノ東日本(株)、ツヅキンフォテクノ西日本(株)他

(2) 電子デバイス事業

電子デバイス・電子機器の販売、ならびに受託設計開発

半導体、電子部品、液晶パネル、直流FAN、ARMツール、ASIC・マイコンの受託設計開発

HDD、組込サーバ機器、サプライ用品

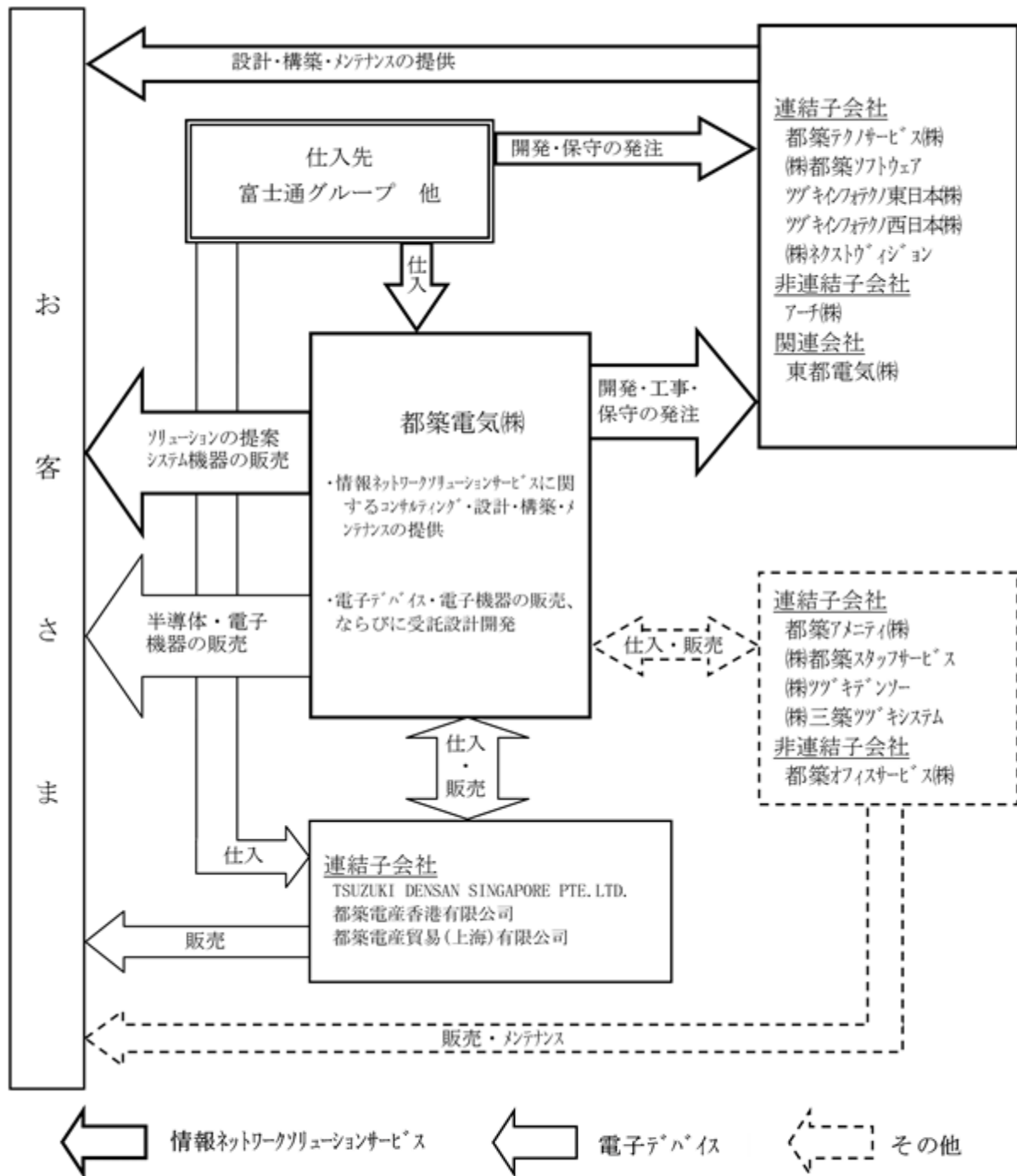
<主な関係会社> TSUZUKI DENSAN SINGAPORE PTE.LTD.、都築電産香港有限公司、都築電産貿易（上海）有限公司

(3) その他の事業

環境関連機器の販売・据付、計測機器・制御機器の販売・据付、車載情報機器・無線通信機器の販売他

<主な関係会社> 都築アメニティ(株)、(株)ツヅキデンソー、(株)都築スタッフサービス、(株)三築ツヅキシステム

事業の系統図は次のとおりです。



4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金又は出資金 (百万円)	主要な事業の内容 (注)1	議決権の所有割合 (%)	関係内容
(連結子会社) 都築テクノサービス㈱	東京都港区	209	情報ネットワークソリューションサービス	100.0	当社が導入したコンピュータシステム等の保守を委託しております。 役員の兼任1名
㈱都築ソフトウェア	東京都品川区	102	情報ネットワークソリューションサービス	100.0	当社はソフトウェアの開発を委託しております。また、事務所等の賃貸借契約を締結しております。 役員の兼任1名 保証債務240百万円
都築アメニティ㈱ (注)2	東京都品川区	120	その他	94.5	事務所等の賃貸借契約を締結しております。 貸付金280百万円 保証債務40百万円
㈱都築スタッフサービス	東京都品川区	30	その他	100.0	当社は人材の派遣を受入れております。また、事務所等の賃貸借契約を締結しております。
ツツキインフォテクノ東日本㈱	東京都中央区	90	情報ネットワークソリューションサービス	100.0	当社は通信設備等の据付及び保守を委託しております。
ツツキインフォテクノ西日本㈱	大阪府中央区	90	情報ネットワークソリューションサービス	100.0	当社は通信設備等の据付及び保守を委託しております。
㈱ツツキデンソー	大阪府淀川区	50	その他	100.0	当社より車載端末等の仕入を行っております。 役員の兼任1名
㈱三築ツツキシステム	東京都港区	20	その他	100.0	当社は半導体等の販売及び仕入を行っております。 役員の兼任1名 貸付金200百万円 保証債務172百万円
㈱ネクストヴィジョン	東京都港区	50	情報ネットワークソリューションサービス	100.0	役員の兼任1名 貸付金387百万円
TSUZUKI DENSAN SINGAPORE PTE.LTD.	20 Cecil Street Singapore	千S\$ 300	電子デバイス	100.0	当社は半導体等の販売及び仕入を行っております。
都築電産香港有限公司	Hennessy Road, Wanchai, Hong Kong	千HK\$ 2,000	電子デバイス	100.0	当社は半導体等の販売及び仕入を行っております。 保証債務636百万円
都築電産貿易(上海)有限公司	Yan An Road(C), Shanghai	千US\$ 560	電子デバイス	100.0	当社は半導体等の販売及び仕入を行っております。 保証債務81百万円

(注)1 「主要な事業の内容」欄には、セグメントの名称を記載しております。

2 債務超過会社であり、債務超過額は、平成26年3月末時点で172百万円となっております。

5【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成26年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
情報ネットワークソリューションサービス	1,712
電子デバイス	151
報告セグメント計	1,863
その他	140
全社(共通)	289
合計	2,292

- (注) 1 従業員数は就業人員数であります。
 2 連結会社における平均臨時雇用者数は、従業員数の総数の100分の10未満であるため記載を省略しております。
 3 全社(共通)は、総務及び経理等の管理部門の従業員数であります。

(2) 提出会社の状況

平成26年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
1,377	42.6	19.5	8,467

セグメントの名称	従業員数(名)
情報ネットワークソリューションサービス	1,050
電子デバイス	146
報告セグメント計	1,196
その他	-
全社(共通)	181
合計	1,377

- (注) 1 従業員数は就業人員数であります。
 2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
 3 提出会社における平均臨時雇用者数は、従業員数の総数の100分の10未満であるため記載を省略しております。
 4 全社(共通)は、総務及び経理等の管理部門の従業員数であります。

(3) 労働組合の状況

連結会社及び提出会社においてそれぞれ健全な労使関係を維持しており、過去及び現在において紛争はなく円満であります。

名称	結成年月日	組合員数	上部団体
都築電気労働組合	昭和22年10月21日	785名	
都築電気 第二労働組合	昭和50年5月12日	97名	
都築テクノサービス労働協力会	昭和48年9月1日	307名	

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度における我が国経済は、政府主導による経済政策や日銀の金融緩和政策等により安定した為替の状況が続き、株式市場は活況を呈し、企業業績と個人消費の回復の兆しが見られ、内需牽引型で景気回復が高まるところとなりました。また、平成26年4月の消費税増税前の駆け込み需要により、個人消費が増加傾向で推移いたしました。その一方で消費税増税後の消費低迷への懸念など、景気の先行きにつきましては、依然として不透明な状況が続いております。

当社グループが関連する情報サービス産業の経営環境は、設備投資抑制や先送りの傾向が続いていた企業の情報システム更新や新規システムの構築等が回復基調となり、期末の駆け込み需要も相まって、当社グループを取り巻く環境も好転いたしました。

この結果、情報ネットワークソリューションサービスは、ソリューションサービスビジネスが好調に推移し、売上・利益ともに前年同期実績を上回ることができました。

電子デバイスは、半導体、電子部品のビジネスが底を打ち上昇局面になったことに加え、付加価値の高いサービスビジネスが計画通り推移したことにより、売上・利益ともに前年同期実績を上回る結果となりました。

この結果、当期における当社グループの業績は、売上高1,106億70百万円（前期比10.0%増）、営業利益20億65百万円（同118.3%増）、経常利益20億65百万円（同149.7%増）、当期純利益9億82百万円（同120.2%増）を計上することができました。

当連結会計年度におけるセグメント別の状況は次のとおりです。

情報ネットワークソリューションサービス

IT基盤に係るビジネスでは、プライベートクラウド、企業ネットワーク、ユニファイドコミュニケーション、コンタクトセンタ、スマートデバイスの導入、設計、構築からサービスマネジメントの拡販に取り組みました。

公共、金融、製造、鉄道等のお客さま向けにインフラの構築商談や各種ソリューションの提供、運用サービス等の拡販に取り組み、特に金融、鉄道関係のビジネスにおいては、タブレット端末のフロント業務活用や鉄道系搬送装置等のプラットフォームビジネスを積極的に推進いたしました。

流通、製造、食品、医療・介護等のお客さま向けに、アプリケーション開発を中心としたソリューションビジネスや、運用サービスを積極的に推進いたしました。

自治体向けオリジナルパッケージの「コクホライン」の拡販に取り組み、また、自社開発の中堅市場向けテンプレート型商品「KitFit（キットフィット）シリーズ」を中心に介護福祉・不動産・市場（いちば）系の業務ソリューションを積極的に推進いたしました。

この結果、情報ネットワークソリューションサービスは売上高846億23百万円（前期比9.0%増）、営業利益18億50百万円（同91.9%増）となり、前年実績を上回ることができました。

テンプレート

業務用ソフトウェアをパターン化したもの

電子デバイス

半導体ビジネスにつきましては、年度後半から主力販売先であるFA機器業界に設備投資需要の回復が見え始め、カスタムLSI、リレーの拡販に取り組みました。また、国内の自動車販売が好調なことから車載情報機器向けLCDの販売を積極的に推進いたしました。

電子機器ビジネスにつきましては、情報機器の販売に加えてソリューションサービスの提供として、HDDソリューションを産業機器用途向けに、組込みサーバをインフラ機器向けに注力いたしました。また、ソフトビジネスの商談獲得に積極的に取り組みました。

この結果、電子デバイスは売上高239億29百万円（前期比14.6%増）、営業利益2億27百万円（前期は5百万円の営業損失）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度におけるキャッシュ・フローは、営業活動によるキャッシュ・フローが43億21百万円の支出、投資活動によるキャッシュ・フローが2億11百万円の収入、財務活動によるキャッシュ・フローが2億88百万円の収入となりました。

この結果、現金及び現金同等物は前連結会計年度末に比較し37億68百万円減少し、130億16百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの主な要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは43億21百万円の支出（前年同期は75億11百万円の収入）となりました。この主な増加要因は、税金等調整前当期純利益が19億69百万円（前年同期は10億27百万円、前年同期比91.7%増）、仕入債務の増加額9億66百万円（前年同期は20億7百万円の増加、同51.8%減）、たな卸資産の減少額11億60百万円（前年同期は11億51百万円の増加）等であり、主な減少要因は、売上債権の増加額95億58百万円（前年同期は57億円の減少）等であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは2億11百万円の収入（前年同期は38億20百万円の収入、前年同期比94.5%減）となりました。この主な増加要因は、有形固定資産の売却による収入18億41百万円（前年同期は6億39百万円の収入、同187.7%増）等であり、主な減少要因は、有形固定資産の取得による支出13億77百万円（前年同期は14億98百万円の支出、同8.1%減）等であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは2億88百万円の収入（前年同期は65億97百万円の支出）となりました。この主な増加要因は、借入金の増加（純額）10億54百万円（前年同期は43億58百万円の増加、前年同期比75.8%減）等であり、主な減少要因は、リース債務の返済による支出7億33百万円（前年同期は5億90百万円の返済、同24.3%増）等であります。

2【仕入、受注及び販売の状況】

(1) 仕入実績

当連結会計年度における仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメント	仕入高(百万円)	前年同期比(%)
情報ネットワークソリューションサービス	31,661	98.1
電子デバイス	18,586	126.1
報告セグメント計	50,248	106.9
その他	1,429	92.7
合計	51,677	106.4

(注)1 セグメント間取引については、相殺消去しております。

2 金額は、仕入価格によっております。

3 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注実績

当連結会計年度における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメント	受注高(百万円)	前年同期比(%)	受注残高(百万円)	前年同期比(%)
情報ネットワークソリューションサービス	79,388	102.6	12,483	70.5
電子デバイス	24,396	118.3	2,460	123.4
報告セグメント計	103,784	105.9	14,943	75.8
その他	2,090	131.5	602	95.7
合計	105,875	106.3	15,546	76.4

(注)1 セグメント間取引については、相殺消去しております。

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメント	販売高(百万円)	前年同期比(%)
情報ネットワークソリューションサービス	84,623	109.0
電子デバイス	23,929	114.6
報告セグメント計	108,552	110.2
その他	2,118	99.7
合計	110,670	110.0

(注)1 セグメント間取引については、相殺消去しております。

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3 主要な販売先につきましては、全ての相手先について、販売実績が合計の100分の10未満のため記載を省略しております。

3【対処すべき課題】

(1) 当社グループの経営の基本方針について

当社グループは、多様化・高度化する情報化社会において、お客さまにご満足いただける最適なソリューションを提供するため、常に最先端の技術に挑戦し、ノウハウの蓄積を図り、グループの総合力を高めるとともに、収益力の一層の向上を図り、企業価値を高める必要性を十分に認識しております。

創業82周年を迎え、更なる持続的成長路線への転換を図り、

1. 「お客さまのそばに」行動の徹底
2. 「構造改革」を加速させる
3. 「都築ブランド力」の向上

以上、三つの経営の基本方針に取り組み、業績向上により当社グループの企業価値を高めてまいります。

また、社会貢献活動や環境保護にも十分配慮した経営を行うことにより、社会やお客さまに信頼されるビジネスパートナーを目指してまいります。

(2) 中長期的な会社の経営戦略と対処すべき課題について

情報サービス産業においては、クラウドサービスやスマートデバイスの技術の進化や、急速な普及、経済のグローバル化によりビジネス環境が大きく変化してきております。ICTの活用領域の広がりは公共・企業から一人ひとりへ、更には国境の壁も無くなり、ビジネス機会が拡大する一方、周辺業界からの参入も増え競争は激しくなってきました。このような当社を取り巻く環境の変化によって、従来のビジネスモデルやお客さまを維持するだけではこれからの成長モデルが描きにくくなっており、今後、持続的成長を実現するためには、付加価値の高いビジネスモデルを創出し、新しいマーケットやビジネス領域の拡大を図っていくことが喫緊の課題であります。当社グループは、いつまでも、「お客さまに信頼されるプライムパートナー」であり続けることを目指して、以下の施策を実施してまいります。

重点事業の拡大深耕

主な具体的な取り組みは、以下のとおりです。

(a) “KitFitシリーズ”のラインアップ拡充による業種別ソリューションモデルを創出

「KitFit Silverland(キットフィット シルバーランド)」の販売を始めとし、医療・介護・福祉ビジネスの更なるシェア拡大を図ります。

(b) 当社オリジナル製品による他社差別化を推進

当社独自のビジネスタブレット製品“CAMELUS(キャメラス)シリーズ”を戦略商品として、通信キャリア系に加え電力、ガス、公共、社会システム市場や農業のIT化市場への参入、展開を図ります。

(c) 電子デバイス事業の長期安定化に向けた取り組み

これまで培った技術ノウハウを活用したサービスビジネスを進化いたします。特にATM用HDDの品質を向上させるサービスビジネスや、拡大するスマートフォンやタブレット市場に向けARM関連ビジネスや組込用サーバシステムの拡販に注力いたします。

競争力の強化

今まで大切にしてきた「お客さまのそばに」の姿勢をより強化してまいります。主な具体的な取り組みは、以下のとおりです。

(a) お客さまとの接点を強化するため、お客さま起点の組織編成に移行し階層別アプローチを軸とした営業戦略を実施することにより、ビジネス領域と受注の拡大を図ります。

(b) 仕損じゼロ、クレームゼロを常に目指し、長年培った豊富なソリューション・サービスのQCDをさらに向上させ、お客さま対応力をより一層強化してまいります。

(c) グループ内のリソースを融合することにより、シナジー効果を発揮し、お客さま起点としたコスト競争力の高いサービスを提供してまいります。

人材マネジメントの強化

「人材確保」「人材育成」「人材活用」を推進し、社会の変化にいち早く対応できる明るく活気ある職場を作ってまいります。主な具体的な取り組みは、以下のとおりです。

(a) お客さま満足度の向上に向け「プロフェッショナル」「グローバル」「自律」をキーワードとした次世代を担う人材育成に継続して取り組んでまいります。

(b) 「ワークライフバランス」や「ダイバーシティ(性別、年齢、国籍、雇用形態の異なる発想、価値を活かす仕組み)」等の人材活用の仕組作りを継続検討していきます。

当社は、これらの課題に鋭意取り組むほか、資本業務提携等も視野に入れ、さらに企業価値と株主共同の利益の向上のため施策を実施してまいります。

4【事業等のリスク】

当社グループの経営成績、株価及び財務状況等に影響を及ぼす可能性のあるリスクには以下のようなものがあります。なお、本文における将来に関する事項は、当連結会計年度末（平成26年3月31日）現在において当社グループが判断したものであります。

事業環境について

IT（情報技術）関連業界における競争は大変厳しいものとなっており、当社グループも競争の激化に直面しております。当社グループの業績に重要な影響を及ぼすリスクとしては以下のものが考えられます。

）技術革新への対応について

当社グループが事業を展開する市場は、急速な技術変化と技術革新による新製品・新サービスの頻繁な投入を特徴としております。これにより、従来から扱っていた製品・サービスが陳腐化し、市場性を失う可能性があります。また、最新の技術情報・製品情報に適切に対応できなかった場合、当社グループの将来の業績に影響を与える可能性があります。

）新製品の開発について

開発案件によっては工程が長期化し、多額の費用が計上される可能性があり、また、売掛金の回収前に多額の資金投入が要求されることがあります。さらには、開発中に技術や規格が変化することにより、当社グループの製品が市場投入前から陳腐化し商品性を失う可能性があります。また、製品の完成時点で想定外の欠陥を含んでいる可能性があり、新製品の市場投入及び出荷の後にこれらが発見される場合があります。

）システム開発における仕損について

ソリューションビジネスにおける請負型システム開発では、開発工程管理や成果物等の品質管理の徹底に努めております。また、重要プロジェクトの状況把握を目的に定期的な会議を開催することで、問題の早期発見・対策に取り組んでおりますが、仕様確定に関する不備、プロジェクト全体の体制問題、技術的な検証等の様々な想定外のトラブルが発生した場合に、リスク発生の可能性があります。

）競合について

当社グループは、事業を展開する多くの市場において激しい競争にさらされており、特に競合企業が当社グループよりも収益性が高く、また、価格面でも競争力を有している場合は、当社グループが激しい価格競争に巻き込まれ、利益の確保が困難になる可能性があります。

）半導体事業について

IC（集積回路）及びLSI（大規模集積回路）等の半導体市場は、循環的な市況変動が非常に大きい市場であり、これまでも深刻な低迷期を繰り返してきました。市況の低迷は、過剰生産、過剰在庫、販売価格の急速な下落等をもたらします。半導体市場は不安定な性質を有しているため、将来においても低迷する可能性があり、その結果、当社グループの将来の業績に影響を与える可能性があります。

経済環境について

日本経済における動向の変化や環境の変化は、当社グループのお客さまにも様々な影響を及ぼしております。当社グループの業績に重要な影響を及ぼすリスクとしては、以下のものが考えられます。

）経済動向による影響について

日本経済は、欧州諸国の財政危機問題、資源価格の動向、為替相場の動向や米国、中国等の海外経済動向等、依然として予断を許さない状況にあります。日本経済が低迷するような場合、当社グループの業績に大きな打撃を与える可能性があります。

）株価の下落について

当社グループは、市場性のある株式を保有しております。全般的かつ大幅な株価下落が続く場合には、保有投資有価証券に減損または評価損が発生し、当社グループの業績に影響を与えるとともに、自己資本比率の低下を招く可能性があります。

）顧客に対する信用リスク

当社グループのお客さまの多くは、代金後払いで当社グループから製品・サービスを購入しております。当社グループに対し多額の債務を有するお客さまが財務上の問題に直面した場合、当社グループの事業、業績及び財務状況はその影響を受ける可能性があります。

情報セキュリティ管理に関する取り組みについて

当社グループは、事業活動全般を通じて取得する情報について、その管理・保護を徹底すべく情報セキュリティ統括責任者を運営責任者とする管理組織を設立するとともに、経営層と直結した情報セキュリティ内部監査チームによる監査体制を設け、リスク管理に努めております。以上のように情報の管理には万全を期しておりますが、万一情報流失等が発生した場合には、社会的信用の失墜や費用負担の発生等、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

固定資産価額の下落

当社グループは、土地を中心とした固定資産を保有しており、これらの固定資産の使用状況、収益性によっては固定資産に減損が発生し、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

年金給付費用

当社グループの従業員退職給付費用及び債務は、数理計算上で設定される前提条件に基づいて算出されております。これらの前提条件には割引率、将来の報酬水準、退職率、直近の統計数値に基づいて算出される死亡率及び年金資産の長期収益率等が含まれます。実際の結果が前提条件と異なる場合、または前提条件が変更された場合、その影響は累積され、将来にわたって定期的に認識されるため、一般的には将来期間において認識される費用及び計上される債務に影響を及ぼします。また、割引率の低下及び年金資産運用での損失は、当社グループの年金費用に対して影響を及ぼします。

特定の取引先への依存

）当社グループは、富士通㈱と経営上の重要な契約として「富士通パートナー契約」、富士通セミコンダクター㈱と「富士通電子デバイス製品取引基本契約」を締結しております。これにより同社の製品（機器、プログラム・プロダクト、保守、サービス、コンサルティング、電子デバイス等）を仕入れておりますが、富士通㈱及び当社グループが、事業上の重大な問題等、なんらかの理由により新製品開発のスピードに遅れを生じさせた場合、当社グループは市場における競争力を失う可能性があります。

）知的財産権の利用について

当社グループの製品の中には、第三者からライセンスを受けてソフトウェアその他の知的財産を使用しているものがあります。しかし、将来にわたってこれらのライセンスを合理的な条件で取得できる保証はなく、当社グループが第三者から必要なライセンスを受けられなくなる可能性や、不利な条件でのライセンスしか認められなくなる可能性があります。

法的規制等について

当社グループは、環境責任、品質責任、個人情報保護、会計基準など法令等を遵守しておりますが、将来、これらに関する法的規制や社会的要請が変更、追加された場合には、これらに係る費用が当社グループの事業、業績及び財務状況に影響を与える可能性があります。

人材の確保について

当社グループは、お客さまに対して最適な製品、サービス及びソリューションを提案していくために、優秀な人材を獲得し維持する必要があります。そのため、当社グループの人事部門は、優秀な人材を採用し、さらに育成を重ねながら雇用し続けることに注力しております。しかしながら、当社グループから優秀な人材が多数離職したり、新規に採用することができなかつた場合、当社グループの事業目的の達成が困難になる可能性があります。

訴訟について

当社グループは、都築グループ行動規範を遵守したビジネス活動を行うべく、リスク・コンプライアンス推進委員会において継続的なコンプライアンスの実践活動を推進しておりますが、万が一当社グループに対して訴訟や法的手続が行われた場合には、業績及び財務状況に影響を与える可能性があります。

災害等について

地震等の自然災害や伝染病等が発生した場合、事務所等の物的損害や人的被害等の直接的な被害のほか、社会インフラの毀損等様々な被害が発生する可能性があります。これらの事象の発生は、設備の修復や人員の代替等に巨額の費用を要するとともに、仕入、受注及び販売活動等に大きな支障をきたすため、業績及び財務状況に影響を与える可能性があります。

為替相場の変動について

当社グループの事業は、海外顧客への販売が含まれております。海外現地法人の財務諸表は原則として現地通貨で作成後、連結財務諸表作成のため円換算されております。したがって、決算時の為替レートにより、現地通貨における価値が変わらなかつたとしても、円換算後の価値が当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。また、国内で発生する外貨建取引につきましては、為替予約等により、為替変動による業績への影響が軽微となるよう努めておりますが、急激な為替変動があつた場合等には、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

このようなリスクのもと、当社グループは、お客さまに高品質な商品と最適なソリューションをお届けするトータルソリューションプロバイダとして、技術力の強化と商品の高付加価値化ならびに新規ビジネスへの取り組みを推進するとともに、リスク管理の一環として、コンプライアンス体制の強化、セキュリティ管理、プロジェクト管理等を徹底し、企業価値の向上に努力してまいります。

5【経営上の重要な契約等】

(提出会社)

平成26年3月31日現在、以下の経営上の重要な契約を締結しております。

相手方の名称	契約名	契約内容	契約期間
富士通(株)	富士通パートナー契約	富士通製品(機器、プログラム・プロダクト、保守、サービス、コンサルティング等)の取扱いに関する契約	平成11年10月1日から平成12年3月31日まで以降1年毎の自動更新
富士通セミコンダクター(株)	富士通電子デバイス製品取引基本契約	富士通製品(電子デバイス製品)の販売活動及びこれに付帯する活動に関する契約	平成2年4月1日から平成3年3月31日まで以降1年毎の自動更新

(連結子会社)

平成26年3月31日現在、以下の経営上の重要な契約を締結しております。

契約会社名	相手方の名称	契約名	契約内容	契約期間
都築テクノサービス(株)	富士通サポートアンドサービス(株)	サービスパートナー契約	クライアント・サーバシステムを含む保守サービス、パーソナル顧客対応、工事施工等に関する契約	平成10年6月1日から平成11年5月31日まで以降1年毎の自動更新
都築アメニティ(株)	東芝キャリア(株)	東芝キャリア特約店基本契約	東芝製及び東芝キャリア製空調機器の販売、施工、保守等に関する契約。	平成11年4月1日から平成12年3月31日まで以降1年毎の自動更新
(株)ツツキデンソー	富士通テン販売(株)	特約店契約	オーディオ、パーソナル無線機の販売活動及びこれに付帯する活動に関する契約	昭和62年4月1日から平成63年3月31日まで以降1年毎の自動更新
(株)三築ツツキシステム	富士電機(株)	商品全般の取引基本契約	富士電機製品(汎用電気製品及び計測機器他)の販売活動及びこれに付帯する活動に関する契約	平成19年7月1日から平成20年3月31日まで以降1年毎の自動更新

6【研究開発活動】

当社グループでは、IT産業の急激な変化の中で常に最新の技術に挑戦し、お客さまにベストソリューションを提案していくための技術基盤の構築及び今後の事業の中心となる製品の研究開発活動に取り組んでおります。

現在の研究開発は、提出会社及び連結子会社の1社が行っております。当連結会計年度の主な研究開発内容は、ソリューションビジネスモデルの拡充、クラウドコンピューティングに関する研究であります。

その結果、当連結会計年度の研究開発費の総額は176百万円となりました。

当連結会計年度における各セグメント別の研究の目的、主要課題、研究開発及び研究開発費は次のとおりであります。

情報ネットワークソリューションサービス

ソリューションビジネスに関する研究

お客さまの要求は多岐にわたる一方で、その要求の全てを満たすことは容易ではありません。また、その一方で、コスト削減要求は強くなっております。このような状況のもと、当社グループは、蓄積されたノウハウを最大限に活用し他社製品との差別化を図ることで市場競争力の維持・強化に努めております。実際の研究開発内容は次のとおりであります。

遠隔監視装置システム構築では、最新の電話交換機を対象とした運用監視システムの設計及び開発を行いました。

モバイルアプリケーションシステム構築では、モバイル端末の管理運用に必要な機能と役割を分析することで新たなモバイル運用サービスメニューの創出に取り組みました。

旅行業基幹システム構築では、次世代型旅行業基幹システム「Travel WINS Next」の機能拡充を行いました。従来製品の機能に加え、クラウドサービスでの提供をはじめ、モバイル端末への対応及び海外拠点での利用を考慮した多言語対応、IFRS（国際会計基準）への準拠などの機能拡張及び強化に取り組みました。

介護システム構築では、生産性と品質に優れた「KitFit」をベースに市場競争力をもったシステム開発を行いました。前連結会計年度において作成した概要設計をもとに基本設計、プログラム設計及び開発を行い、現行のシステムから見やすい画面・操作性及びセキュリティの向上に取り組みました。

今後もこれらの活動に積極的に取り組み、市場競争力をもった高品質・低コストなシステムを開発してまいります。当セグメントにおける研究開発活動に携わった人員は39名であり、研究開発費の金額は176百万円であります。

7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末（平成26年3月31日）現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されており、財政状態及び経営成績に関する以下の分析が行われています。

当社経営陣は、連結財務諸表の作成に際し、決算日における資産・負債の報告数値及び偶発債務の開示、ならびに報告期間における収入・費用に影響を与える見積り及び仮定設定を行わなければなりません。経営陣は見積り及び判断に対して、過去の実績や状況に応じ合理的だと考えられる様々な要因に基づき継続して評価を行っております。しかし、見積り特有の不確実性があるため、実際の結果とは異なる場合があります。

当社グループでは、特に以下の重要な会計方針が、当社の連結財務諸表の作成において使用される判断と見積りに大きな影響を及ぼすと考えております。

貸倒引当金

当社グループは、お客さまの支払不能時及び貸付金等の回収懸念時に発生する損失の見積額について、貸倒引当金を計上しております。お客さま及び貸付先の財務状態が悪化し、その支払能力が低下した場合、追加引当が必要となる可能性があります。

たな卸資産

当社グループは、仕掛品については個別法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を、商品及び製品・原材料及び貯蔵品については先入先出法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しており、仕掛品について見積り額にて引当金を計上しております。

投資の減損

当社グループは、長期的な取引関係の維持のために、特定の取引先及び金融機関の株式を所有しております。これらの株式には市場性のある株式と時価の無い株式及び関係会社株式が含まれます。当社グループは投資価値の下落が一時的ではないと判断した場合、投資の減損を計上しております。市場性のある株式の場合、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30%以上50%未満下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。時価の無い株式についてはそれらの会社の「1株当たりの簿価純資産額」が50%以上下落した場合、合理的な判断のもと減損しております。

繰延税金資産

当社グループは、繰延税金資産について、実現可能性が高いと考えられる金額へ減額するために評価性引当額を計上しております。評価性引当額の必要性を評価するに当たっては、将来の課税所得及び、慎重かつ実現可能性の高い継続的な税務計画を検討しますが、繰延税金資産の全部または一部を将来実現できないと判断した場合、その判断を行った会計年度に繰延税金資産の調整額を費用として計上いたします。

年金給付費用

従業員退職給付費用及び債務は、数理計算上で設定される前提条件に基づいて算出されております。これらの前提条件には割引率、将来の報酬水準、退職率、直近の統計数値に基づいて算出される死亡率及び年金資産の長期収益率などが含まれます。実際の結果が前提条件と異なる場合、または前提条件が変更された場合、その影響は累積され、将来にわたって定期的に認識されるため、一般的には将来期間において認識される費用及び計上される債務に影響を及ぼします。

(2) 当連結会計年度の経営成績の分析

概要

第2【事業の状況】 1【業績等の概要】 (1) 業績をご参照願います。

財政状態

当連結会計年度末の資産につきましては、前連結会計年度末に比較して60億11百万円増加し、700億48百万円となりました。この主な増加要因は、受取手形及び売掛金の増加96億51百万円等であり、主な減少要因は、現金及び預金の減少37億68百万円、たな卸資産の減少11億25百万円等であります。

負債につきましては、借入金の増加（純額）11億14百万円及び退職給付に係る負債の増加80億4百万円及び退職給付引当金の減少69億64百万円等により、前連結会計年度末に比較して50億71百万円増加の510億63百万円となりました。

純資産につきましては、当期純利益9億82百万円を計上したほか、配当金の支払95百万円や、自己株式の処分1億15百万円等により、前連結会計年度末に比較して9億39百万円増加の189億84百万円となりました。

この結果、自己資本比率は27.1%となりました。

(3) 経営成績に重要な影響を与える要因について

第2 [事業の状況] 4 [事業等のリスク] 事業環境についてをご参照願います。

(4) 戦略的現状と見通し

当社グループが関連する情報サービス産業の経営環境は引き続き厳しい状況にあります。情報ネットワークソリューションサービスについては、インフラ構築商談やユニファイドコミュニケーション（注）等の提案力・販売力の強化を図ってまいります。

また、得意分野におけるソリューションビジネスを積極的に推進し、他社との差別化を図ってまいります。

電子デバイスについては、情報機器販売に加えてソリューションサービスの提供を推進して、安定的な事業構造の構築に努めてまいります。

（注）ユニファイドコミュニケーション（Unified Communication）

音声、メール、画像、FAXなどが有機的に統合された次世代コミュニケーションスタイルのこと

(5) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

キャッシュ・フロー

キャッシュ・フロー関連指標の推移

	平成23年3月期	平成24年3月期	平成25年3月期	平成26年3月期
自己資本比率（％）	43.3	41.2	28.2	27.1
時価ベースの自己資本比率（％）	29.4	28.5	7.7	7.9
キャッシュ・フロー対有利子負債比率（％）	-	1,178.2	199.2	-
インタレスト・カバレッジ・レシオ（倍）	-	7.4	36.3	-

（注）自己資本比率：自己資本 / 総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額 / 総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債 / キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：キャッシュ・フロー / 利払い

いずれも連結ベースの財務数値により計算しております。

株式時価総額は、期末株価終値 × 期末発行済株式数（自己株式控除後）により算出しております。

キャッシュ・フローは営業キャッシュ・フローを使用しております。

有利子負債は連結貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っている全ての負債を対象としています。

営業活動によるキャッシュ・フローは43億21百万円の支出（前年同期は75億11百万円の収入）となりました。この主な増加要因は、税金等調整前当期純利益が19億69百万円（前年同期は10億27百万円、前年同期比91.7%増）、仕入債務の増加額9億66百万円（前年同期は20億7百万円の増加、同51.8%減）、たな卸資産の減少額11億60百万円（前年同期は11億51百万円の増加）等であり、主な減少要因は、売上債権の増加額95億58百万円（前年同期は57億円の減少）等であります。

投資活動によるキャッシュ・フローは2億11百万円の収入（前年同期は38億20百万円の収入、前年同期比94.5%減）となりました。この主な増加要因は、有形固定資産の売却による収入18億41百万円（前年同期は6億39百万円の収入、同187.7%増）等であり、主な減少要因は、有形固定資産の取得による支出13億77百万円（前年同期は14億98百万円の支出、同8.1%減）等であります。

財務活動によるキャッシュ・フローは2億88百万円の収入（前年同期は65億97百万円の支出）となりました。この主な増加要因は、借入金の増加（純額）10億54百万円（前年同期は43億58百万円の増加、前年同期比75.8%減）等であり、主な減少要因は、リース債務の返済による支出7億33百万円（前年同期は5億90百万円の返済、同24.3%増）等であります。

財務政策

当社グループの運転資金は、自己資金及び借入により調達しております。このうち借入による資金調達につきましては全て金融機関からの借入によっており、当連結会計年度末の残高は、短期借入金が78億4百万円、長期借入金71億30百万円（うち1年以内に返済予定の長期借入金は96百万円）となっております。

(6) 経営者の問題認識と今後の方針について

第2 [事業の状況] 3 [対処すべき課題] をご参照願います。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資の総額は8億69百万円(無形固定資産を含む)であり、所要資金は自己資金及び借入金によっております。

セグメントごとの設備投資について示すと、次のとおりであります。

(情報ネットワークソリューションサービス)

グループ内のインフラ整備を目的に、パソコンやサーバ等のリース資産(有形)を4億68百万円、無形固定資産(リース含む)を3億56百万円取得しております。そのほか、工具器具及び備品の取得15百万円、建物及び構築物の取得15百万円等を行いました。この結果、当セグメントにおける設備投資額は8億57百万円となりました。

(電子デバイス)

社内のインフラ整備を目的に無形固定資産を4百万円を取得しております。そのほか、工具器具及び備品の取得6百万円、建物及び構築物の取得1百万円を行いました。この結果、当セグメントにおける設備投資額は12百万円となりました。

2【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

平成26年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (名)
			建物及び構 築物	機械装置及 び運搬具	土地 (面積㎡)	リース資産	その他	合計	
本社 (東京都港区)	情報ネット ワークソ リユーショ ンサービス	本社ビル電 話設備・LAN 設備他	459	-	-	596	51	1,107	811
第二本社 (東京都港区)	電子デバイ ス	第二本社ビ ル(土地・ 建物)他	254	9	1,239 (476.5)	42	-	1,546	85

(2) 国内子会社

平成26年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメン トの名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (名)
				建物及び 構築物	機械装置及 び運搬具	土地 (面積㎡)	リース資産	その他	合計	
都築テクノ サービス(株)	本社 (東京都 港区)	情報ネット ワークソ リユーショ ンサー サービス	建物間仕 切・LAN機 器他	8	-	-	-	116	125	82

(注)1 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

2 帳簿価額「その他」は工具器具及び備品であります。

3 従業員数は就業人員数であります。

前記の他、連結会社以外からの主要な賃借設備の内容は、下記のとおりであります。

(1) 提出会社

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	リース期間	年間リース料 (百万円)	リース契約残高 (百万円)
本社 (東京都港区)	情報ネットワーク ソリューション サービス	FMVパソコン	4年	23	75
本社 (東京都港区)	情報ネットワーク ソリューション サービス	タブレット端末	3年	10	29
本社 (東京都港区)	情報ネットワーク ソリューション サービス	タブレット端末	3年	9	25
本社 (東京都港区)	情報ネットワーク ソリューション サービス	FMVパソコン	4年	6	20
本社 (東京都港区)	情報ネットワーク ソリューション サービス	PRIMERGY RX300 PRIMERGY RX200	5年	5	20
第二本社 (東京都港区)	電子デバイス	事務処理用電算機 システム等	4年	16	37

(2) 国内子会社

特記事項はありません。

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

特記事項はありません。

(2) 重要な設備の除却等

特記事項はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	98,920,000
計	98,920,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成26年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成26年6月27日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	25,677,894	25,677,894	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数 1,000株
計	25,677,894	25,677,894		

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (千株)	発行済株式総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増減額 (百万円)	資本準備金残高 (百万円)
平成22年12月1日 (注)	290	25,677		9,812	131	2,584

(注) 都築電産株式会社との株式交換に伴う新株発行によるものであります。

発行価額 453円 資本準備金組入額 131百万円

(6)【所有者別状況】

平成26年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数1,000株)								単元未満株式の状況 (株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	11	11	48	5	-	1,292	1,367	-
所有株式数 (単元)	-	2,674	307	4,242	22	-	18,071	25,316	361,894
所有株式数の割合(%)	-	10.6	1.2	16.8	0.1	-	71.4	100.0	-

(注) 1 自己株式13,606,005株のうち、ESOP信託所有自己株式は「金融機関」の欄に126単元、当社所有自己株式は「個人その他」に13,480単元及び「単元未満株式の状況」に5株含めて記載しております。

なお、当社所有自己株式13,480,005株は株主名簿記載上の株式数であり、期末日現在の実質的な所有株式数は13,479,005株であります。

2 証券保管振替機構名義の株式1,000株は「その他の法人」に1単元含めて記載しております。

(7)【大株主の状況】

平成26年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
富士通株式会社	川崎市中原区上小田中4丁目1番1号	2,402	9.36
都築電気従業員持株会	港区新橋6丁目19番15号 東京美術倶楽部ビル	1,212	4.72
扶桑電通株式会社	中央区築地5丁目4番18号	766	2.98
株式会社三菱東京UFJ銀行	千代田区丸の内2丁目7番1号	591	2.31
株式会社みずほ銀行 (常任代理人 資産管理サービス信託銀行株式会社)	千代田区内幸町1丁目1番5号 (中央区晴海1丁目8番12号 晴海アイランドトリトンスクエアオフィスタワーZ棟)	591	2.30
株式会社三井住友銀行	千代田区丸の内1丁目1番2号	591	2.30
丸三証券株式会社	千代田区麴町3丁目3番6号	192	0.75
三井住友信託銀行株式会社 (常任代理人 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社)	千代田区丸の内1丁目4番1号 (中央区晴海1丁目8番11号)	189	0.74
三菱UFJ信託銀行株式会社 (常任代理人 日本マスタートラスト信託銀行株式会社)	千代田区丸の内1丁目4番5号 (港区浜松町2丁目11番3号)	169	0.66
ヤマトインターナショナル株式会社	大阪市中央区博労町2丁目3番9号	154	0.60
計		6,859	26.71

(注) 上記のほか、自己株式が13,605千株あります。なお、このほかに株主名簿上は当社名義となっているが、実質的に所有していない株式が1千株あります。

(8) 【議決権の状況】
【発行済株式】

平成26年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 13,479,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 11,837,000	11,837	
単元未満株式	普通株式 361,894		
発行済株式総数	25,677,894		
総株主の議決権		11,837	

(注)1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が、1,000株(議決権1個)含まれております。

2 ESOP信託所有の株式126,000株(議決権の数126個)につきましては、完全議決権株式(その他)に含めて表示しております。

【自己株式等】

平成26年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) 都築電気株式会社	東京都港区新橋 六丁目19番15号	13,479,000	126,000	13,605,000	53.0
計		13,479,000	126,000	13,605,000	53.0

(注)1 株主名簿上は当社名義となっておりますが、実質的に所有していない株式が1,000株(議決権1個)あります。なお、当該株式数は上記「発行済株式」の「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式に含めております。

2 他人名義で所有している理由等

従業員インセンティブ・プラン「従業員持株ESOP信託」の信託財産として、三菱UFJ信託銀行株式会社(従業員持株ESOP信託口)が所有しております。

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

(10) 【従業員株式所有制度の内容】

従業員株式所有制度の概要

(信託型従業員インセンティブ・プランについて)

当社は、平成23年3月14日開催の取締役会において、当社グループ従業員に対する福利厚生制度の充実及び当社の業績や株価への意識を高めることにより、中長期的な企業価値向上を図ることを目的としたインセンティブ・プランとして従業員持株ESOP信託の導入を決議しております。

当該制度は、当社持株会に加入する従業員のうち、一定の要件を充足する者を受益者とする信託を設定し、当該信託は5年間にわたり当社持株会が取得すると見込まれる当社株式を予め定める取得期間中に取得し、その後毎月一定日に当社持株会へ売却を行うものであります。従業員持株会信託口が取得する当社株式については、本項における自己株式の数には含めておりません。

なお、会計処理については、経済的実態を重視し、当社と信託口は一体であるとする会計処理を行っております。従って、信託口が所有する当社株式や信託口の資産及び負債ならびに費用及び収益についても、連結財務諸表等に含めて計上しております。

従業員等持株会に取得させる予定の株式の総額

380百万円

当該従業員株式所有制度による受益権その他の権利を受けることができる者の範囲

信託終了時に持株会に加入している者

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】

会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	7,466	3,296,606
当期間における取得自己株式	1,245	583,940

(注) 当期間における取得自己株式には、平成26年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他	153,826	69,802,369	13,000	6,291,580
保有自己株式数	13,605,005	-	13,593,250	-

- (注) 1 当期間における保有自己株式には、平成26年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取り及び売渡しによる株式は含まれておりません。
- 2 保有自己株式数には、当保有の自己株式の他に、ESOP信託が所有する自己株式が当事業年度において126,000株、当期間において113,000株含まれております。なお、当期間におけるESOP信託所有の自己株式数は、平成26年6月1日から有価証券報告書提出日までのESOP信託から当社持株会への売却株式数を控除しておりません。
- 3 当期間における「その他」の減少 株は、ESOP信託から従業員持株会への自己株式の売却によるものであります。

3 【配当政策】

当社は、利益配分につきましては、業績に見合った株主各位への利益還元と長期的な視野に立った内部留保の充実を図りつつ、中間配当と期末配当の年2回の安定的な配当を継続していくことを基本方針としております。これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当・中間配当ともに取締役会であります。当社は、「取締役会の決議によって、会社法第459条第1項各号に掲げる事項を定めることができる。」旨を定款に定めております。当事業年度の配当につきましては、上記方針に基づき当期は1株当たり12円(うち中間配当4円)を実施することを決定いたしました。内部留保資金につきましては、技術力の強化や研究開発投資に活用するとともに、成長性、収益性の高い事業分野への投資及び人材育成のための教育投資として活用してまいります。自己株式の取得につきましても、有効な株主様への利益還元の一つと考えており、株価の動向や財務状況等を考慮しながら適切に対応してまいります。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)
平成25年10月25日 取締役会決議	48	4
平成26年4月30日 取締役会決議	96	8

(注) 配当金の総額には、従業員持株ESOP信託口に対する配当金を含めておりません。これは、従業員持株ESOP信託口が保有する当社株式を自己株式として認識しているためです。

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第70期	第71期	第72期	第73期	第74期
決算年月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月
最高(円)	387	815	830	767	521
最低(円)	241	292	687	372	402

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第二部における市場相場によったものであります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成25年10月	11月	12月	平成26年1月	2月	3月
最高(円)	448	449	470	496	475	469
最低(円)	415	429	433	454	451	439

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第二部における市場相場によったものであります。

5 【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 執行役員社長		日浦 秀樹	昭和27年 1月25日生	昭和49年 4月 当社入社 平成 9年 4月 製造営業統括部第二営業部長兼 第一営業課長 平成14年 4月 北海道支店長 平成18年 4月 製造営業統括部長兼第一営業部 長兼第二営業部長 平成20年 4月 大阪支店長 平成21年 4月 西地区担当 平成21年 6月 取締役就任 平成24年 2月 取締役執行役員就任 平成24年 4月 情報営業本部長代理兼地域ビジ ネス本部長代理兼製造営業統括 部長兼西地区担当 平成24年 5月 代表取締役執行役員社長(現 任)	(注)3	15
取締役 執行役員常 務	管理本部長	吉井 一典	昭和32年 9月25日生	昭和56年 4月 当社入社 平成12年11月 経理部長 平成17年 6月 取締役就任 平成20年 4月 管理本部長補佐 平成21年 1月 管理本部長 平成21年 4月 財務経理本部長 平成22年 4月 常務取締役就任 平成23年 4月 総務人事本部長・環境推進室担 当 平成24年 2月 取締役執行役員常務就任(現 任) 平成24年10月 管理本部長(現任)・財務経理 統括部長 平成26年 4月 管理本部担当(現任)	(注)3	34
取締役 執行役員常 務	ビジネスソ リューション本 部長・東日本本 部長	江森 勲	昭和34年 1月27日生	昭和56年 4月 当社入社 平成12年 4月 福祉ビジネスプロジェクト担当 部長 平成13年 4月 公共営業統括部自治体推進支援 室長 平成16年 4月 北海道支店長 平成20年 4月 東日本営業統括部長 平成21年 4月 情報営業本部情報営業担当・東 地区担当ならびに社会システム 営業統括部長 平成21年 6月 取締役就任 平成22年 4月 常務取締役就任 情報営業本部長・地域ビジネス 本部長代理・東地区・情報セ キュリティ推進室担当 平成24年 2月 取締役執行役員常務就任(現 任) 平成24年 6月 情報営業本部長兼東日本本部長 兼情報セキュリティ推進室担当 平成24年10月 情報営業本部長・東日本本部長 平成25年 4月 ビジネスソリューション本部 長・東日本本部長(現任) 平成26年 4月 ビジネスソリューション本部・ 東日本本部・中日本本部担当 (現任)	(注)3	19

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役 執行役員常務	マーケティング 本部長	戸澤 正人	昭和32年6月1日生	昭和56年4月 富士通株式会社入社 平成11年4月 同社西日本営業本部営業支援部長 平成13年11月 同社マーケティング本部ソフトサービス企画統括部長 平成19年6月 株式会社富士通ビジネスシステム(現株式会社富士通マーケティング)取締役 平成20年6月 富士通株式会社社長室長代理 平成22年6月 同社ソリューションビジネス企画室長 平成23年8月 当社顧問就任 平成24年2月 執行役員常務就任 平成24年6月 取締役執行役員常務就任(現任) ニュービジネス本部長 平成25年4月 マーケティング本部長(現任) 平成26年4月 マーケティング本部・機器デバイス本部担当(現任)	(注)3	4
取締役		浦川 親章	昭和26年10月16日生	昭和51年4月 富士通株式会社入社 平成13年7月 同社ITプロダクト営業本部サーバビジネス統括営業部長兼第二営業部長 平成16年6月 同社九州営業本部長 平成20年6月 同社経営執行役就任 平成22年4月 同社執行役員常務就任 平成22年5月 同社公共・地域ソリューションビジネスグループ長 平成22年6月 当社取締役就任(現任) 平成25年5月 富士通株式会社国内営業部門長(現任) 平成25年6月 同社取締役執行役員専務就任(現任)	(注)3	-

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
取締役 相談役		安藤 始	昭和29年1月2日生	昭和52年4月 平成9年4月 平成14年6月 平成17年4月 平成18年4月 平成19年6月 平成20年4月 平成21年1月 平成21年4月 平成22年4月 平成24年2月 平成24年5月 平成26年4月	当社入社 第二流通営業統括部第一営業部長 取締役就任 常務取締役就任 流通営業統括部・東京営業統括部・西地区担当ならびに流通営業統括部長兼東京営業統括部長 流通営業統括部・東京営業統括部・製造営業統括部・ニューソリューション営業部・西地区担当ならびに流通営業統括部長兼東京営業統括部長 情報セキュリティ推進室・流通営業統括部・東京営業部・製造営業統括部・ニューソリューション営業部・西地区担当 情報営業本部長・情報セキュリティ推進室担当 情報営業本部長・情報セキュリティ推進室担当 情報営業本部長・情報セキュリティ推進室担当 代表取締役社長就任 代表取締役執行役員社長就任 取締役相談役就任(現任) 西日本本部担当(現任)	(注)3	23
取締役 執行役員	テクノロジーソリューション本部副本部長・第二システム統括部長	向田 俊也	昭和33年8月3日生	昭和56年4月 平成15年4月 平成19年4月 平成19年6月 平成20年4月 平成21年4月 平成22年4月 平成24年2月 平成24年6月 平成25年4月 平成26年4月	当社入社 システム統括部第二システム部長 システム統括部長 取締役就任 システム本部システム担当ならびにプロジェクト支援室長 システム本部システム担当 システム本部部長代理 システム統括部長 取締役執行役員就任(現任) システム本部長 テクノロジーソリューション本部副本部長・第二システム統括部長(現任) テクノロジーソリューション本部担当(現任)	(注)3	14

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
取締役 執行役員	テクノロジー ソリューション本 部長	志村 一弘	昭和30年10月3日生	昭和53年4月 平成13年4月 平成16年4月 平成17年4月 平成20年4月 平成21年6月 平成23年4月 平成24年2月 平成24年4月 平成24年10月 平成25年4月 平成26年4月	当社入社 豊田営業所長(部長待遇) 名古屋支店ネットワーク ソリューション部長 名古屋支店長兼ネットワー クソリューション部長 ネットワーク本部ネットワー ク担当ならびに第一ネットワー クソリューション営業統括部長兼 第一営業部長兼IP企画部長 取締役就任 ネットワーク本部長代理 第一ネットワークソリューシ ョン営業統括部長 取締役執行役員就任(現任) 運用アウトソーシング部長 ネットワーク本部長 テクノロジーソリューション本 部長(現任) テクノロジーソリューション本 部担当(現任)	(注)3	11
常勤監査役		水島 俊久	昭和28年1月26日生	昭和50年4月 平成9年1月 平成14年2月 平成14年4月 平成15年6月 平成15年6月 平成21年4月 平成24年2月 平成24年6月	株式会社三菱銀行(現株式会社 三菱東京UFJ銀行)入行 同行国分寺支店長 同行リテール営業部大阪担当部 長 同行理事就任 当社顧問就任 取締役就任 常務取締役就任 取締役執行役員常務就任 監査役就任(現任)	(注)4	19
常勤監査役		中本 徹	昭和28年8月8日生	昭和57年9月 平成8年4月 平成14年4月 平成15年4月 平成16年4月 平成18年4月 平成19年4月 平成24年2月 平成24年6月	都築電産株式会社(現都築電気 株式会社)入社 同社サプライ部長 同社大阪支店情報機器部長 同社第一サプライ部長 同社管理統括部長 同社監査室長 同社常勤監査役就任 当社顧問就任 監査役就任(現任)	(注)4	2
監査役		穴戸 金二郎	昭和18年9月23日生	昭和43年4月 平成7年8月 平成15年6月 平成19年6月	弁護士登録(第二東京弁護士会) 銀座法律特許事務所開設 ソマール株式会社監査役就任 (現任) 当社監査役就任(現任)	(注)5	-
監査役		村島 俊宏	昭和32年4月2日生	平成8年4月 平成11年4月 平成13年4月 平成18年6月 平成23年6月	弁護士登録(第一東京弁護士会) 青山中央法律事務所入所 同事務所パートナー 村島・穂積法律事務所設立 同事務所パートナー(現任) ニフティ株式会社社外取締役就 任 当社監査役就任(現任)	(注)5	-
計							146

- (注) 1 取締役浦川親章は、社外取締役であります。
 2 監査役穴戸金二郎及び村島俊宏は、社外監査役であります。
 3 平成26年6月27日開催の定時株主総会の終結の時から1年間
 4 平成24年6月28日開催の定時株主総会の終結の時から4年間
 5 平成23年6月29日開催の定時株主総会の終結の時から4年間
 6 当社は、法令に定める監査役員数を欠くことになる場合に備え、会社法第329条第2項に定める補欠監査役1名を選任しております。補欠監査役の略歴は次のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴	所有株式数 (千株)
前田 征信	昭和19年2月28日生	昭和43年4月 伊藤忠商事株式会社入社 平成11年5月 株式会社ファミリーマート 取締役・経理財務部長 平成12年6月 同社常勤監査役 平成18年8月 株式会社ゼクス常勤監査役 平成22年6月 同社常勤監査役退任	-

6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

(コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方)

当社グループでは、効率的で透明性のある企業経営により、企業としての社会的責任の遂行と継続的な株主価値の向上を目指しております。

企業統治の体制（平成26年6月27日現在）

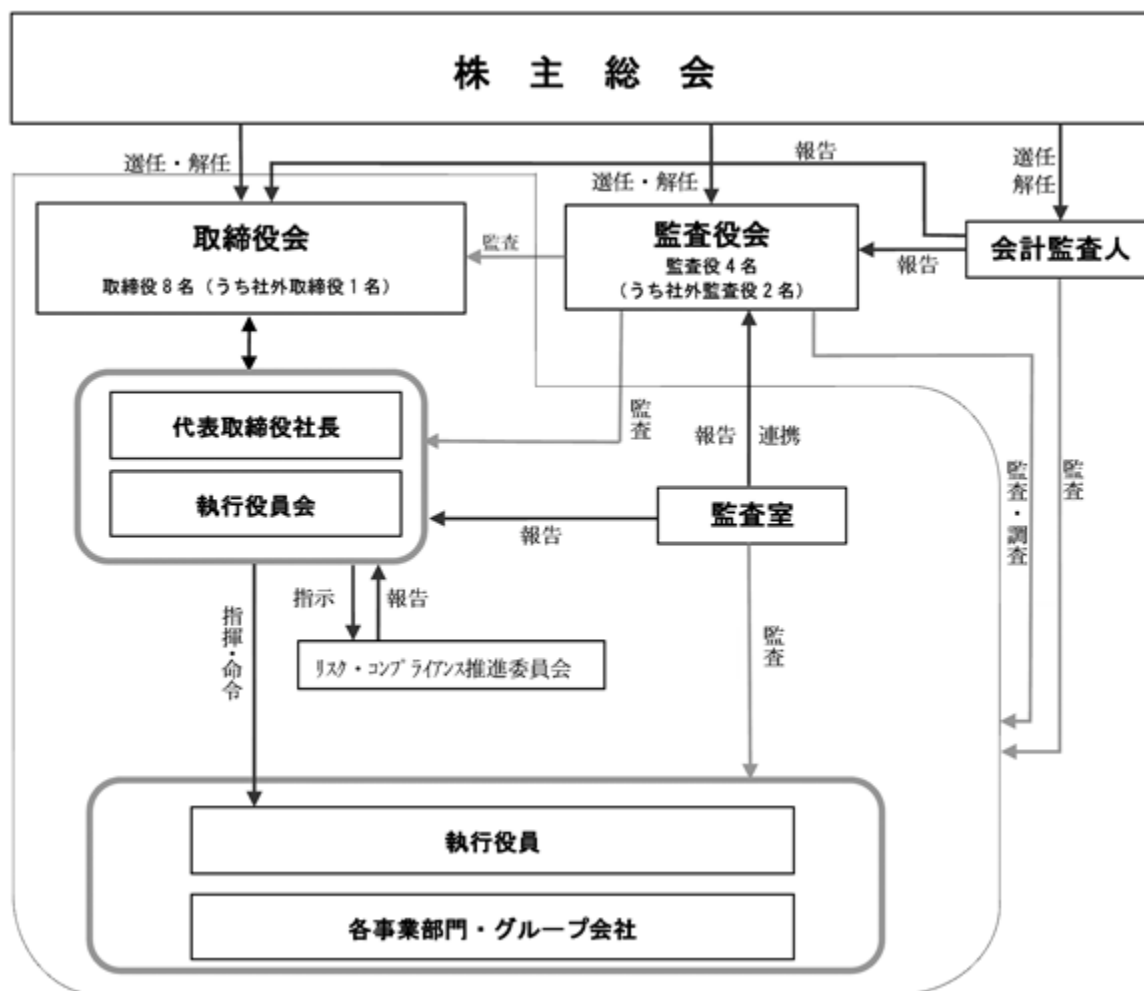
）企業統治の体制の概要

当社は、監査役会設置会社であります。また、当社は取締役会のほかに執行役員会を設置しております。

）企業統治の体制を採用する理由

平成26年6月27日現在当社の取締役会は、取締役8名（うち1名は社外取締役）によって構成されており取締役会は重要な意思決定機関であるとともに、経営を監視する機関と位置付けております。また、執行役員会を設置し、経営のスピード化・戦略性の向上を図るとともに、組織的な情報の共有、コンプライアンスの強化を図っております。

）会社の機関・内部統制の関係（図表参照）（平成26年6月27日現在）



）内部統制システムの整備の状況及びリスク管理体制の整備の状況

a) コンプライアンス（法令遵守）への取り組み

取締役及び従業員が法令・定款・社内規程を遵守し、倫理を尊重する行動ができるように「都築グループ行動規範」を定め、また、その徹底を図るために、「リスク・コンプライアンス推進委員会」を運営し、コンプライアンス上の重要な問題を審議するとともに、体制の維持・向上を図っております。

さらに社内通報制度を定め、グループ会社内での法令違反等の不正行為の早期発見と是正を図っております。

b) 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役の職務執行に係る情報については、法令及び「文書管理規程」に基づき、適切に保存・管理し、取締役、監査役、会計監査人等から閲覧の要請があった場合、速やかに閲覧が可能な体制を整備しております。

c) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

リスク管理体制の基礎として「リスク管理規程」を定め、「リスク・コンプライアンス推進委員会」において対策・運用を図っております。また、不測の事態が発生した場合には、「リスク・コンプライアンス推進委員会」は当該リスクの適正な把握に努めるとともに、個々のリスクについて管理責任者を定め、迅速な対応と損害の拡大を防止する体制を整えております。

d) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制の基礎として、取締役会を月1回定時に開催するほか、必要に応じて適宜臨時に開催しております。また、経営に関する重要事項については執行役員会において議論を行い、その審議を経て、取締役会で決定しております。

取締役会の決定に基づく業務執行については、「業務分掌規程」、「職務権限規程」において、それぞれの責任者及びその責任、執行手続の詳細について定めております。

e) 財務報告の信頼性を確保するための体制

当社グループの財務報告の信頼性を確保するため、金融商品取引法に基づく、有効かつ適切な内部統制システムを構築しております。また、財務報告に係る内部統制の整備・運用状況について継続的に評価し、必要なる是正措置を行うことにより、実効性のある体制の構築を図っております。

f) 当社及びその子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

グループ各社の業務の適正を確保するため、グループ各社にも「都築グループ行動規範」を適用し、グループ各社はこれを基礎として諸規程を定めております。

また、経営管理については「関係会社管理規程」に従い、当社へ決裁及び報告を行っております。さらに、当社ならびにグループ会社の責任者による関係会社連絡会議を開催し、業務の適正を管理しております。

g) 監査役の職務を補助すべき従業員に関する体制と当該従業員の取締役からの独立性に関する事項

監査役は、補助者として事前に決められた監査室の要員に対し、監査業務の補助を行うよう依頼することができます。また、上記の補助者の人事異動、人事評価、懲戒処分については、監査役会の承認を得なければならないことと規定しております。

h) 取締役及び従業員が監査役に報告をするための体制及び監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

取締役及び従業員は、当社及びグループ各社の業務または業績に著しい損害を及ぼす恐れのある事実を発見したときは、直ちに当該事実を監査役に報告しなければならないと、また、監査役は必要に応じて、取締役及び従業員に対し報告を求めることができます。

また、監査役会は、代表取締役社長、会計監査人と定期的に意見交換会を開催しており、監査役は、グループ各社の監査役等との緊密な連携を保ち、効率的な監査並びに調査の実施に努めております。

内部監査及び監査役監査の状況

内部監査及び監査役監査の組織、人員及び手続

当社では内部監査を行う組織として、取締役会直轄の監査室を設置しており、年間監査計画に基づき内部監査を実施し、その結果を取締役及び監査役に報告しております。なお、平成26年6月27日現在監査室に所属している人員は6名であります。

また、監査役は4名で、うち2名は社外監査役であります。社外監査役2名は弁護士資格を有しております。

監査役による監査の方針、監査計画、監査の方法及び監査業務の分担は、監査役会において協議の上策定しております。また、監査役は当社の取締役会に出席するほか、必要に応じて各重要な会議に出席し、積極的に監査事項に関する意見を述べております。

) 内部監査、監査役監査及び会計監査の相互連携ならびにこれらの監査と内部統制部門との関係

監査役会において、会計監査人である太陽A S G有限責任監査法人から定期的に監査計画、監査結果等について詳細な説明が行われ、積極的な質疑応答が行われるほか意見交換会を年2回開催しております。

また、当社では取締役会直轄の監査室が、年間監査計画に基づいて内部監査を実施しております。監査室は、監査役に監査報告書の写しを都度提出しており、その内容について説明を求められた場合、説明を行っております。また、監査室長は監査役の補助者として監査役の指示によりその補佐をすることとなっております。なお、監査役と監査室は互いの監査計画書を提示し、意見交換に努め、連携して監査の実効性を確保するとともに意思疎通を図っております。

会計監査の状況

会社法監査及び金融商品取引法監査について、太陽A S G有限責任監査法人と監査契約を締結しております。当社監査に従事する監査責任者等の氏名及び継続監査年数は以下のとおりであります。

氏名	継続監査年数
業務執行社員 泉 淳一	3年
業務執行社員 大矢 昇太	6年

監査業務に従事する補助者は、公認会計士10名、その他の監査補助者5名で構成されております。

社外取締役及び社外監査役

) 社外取締役・社外監査役の機能・役割及び選任状況について

当社は社外取締役1名、社外監査役2名を招聘しております。

1. 社外取締役 浦川親章

一. 他の法人等の業務執行者としての重要な兼職の状況及び当社と当該他の法人等の関係

富士通株式会社取締役執行役員専務であります。富士通株式会社は、当社の大株主であります。なお、当社は富士通株式会社との間に製品販売等の取引関係があります。

二. 他の法人等の社外役員等としての重要な兼職の状況及び当社と当該他の法人等との関係

該当事項はありません。

2. 社外監査役 宍戸金二郎

一. 他の法人等の業務執行者としての重要な兼職の状況及び当社と当該他の法人等の関係

該当事項はありません。

二. 他の法人等の社外役員等としての重要な兼職の状況及び当社と当該他の法人等との関係

ソマール株式会社社外監査役であります。当社はソマール株式会社との間には特別な関係はありません。

3. 社外監査役 村島俊宏

一. 他の法人等の業務執行者としての重要な兼職の状況及び当社と当該他の法人等の関係

該当事項はありません。

二. 他の法人等の社外役員等としての重要な兼職の状況及び当社と当該他の法人等との関係

該当事項はありません。

社外取締役及び社外監査役は、その独立した立場から当社の業務執行状況の監督ならびに経営上の重要事項に関する意思決定に参画し、客観的視点で質問、助言を行っております。

また、社外取締役・社外監査役の選任に当たっては、専門的知識や豊富な経験・実績、見識等を有することに加え、独立性を勘案し、当社の経営に関する客観性や中立性を高め、経営体制・監査体制の強化に資すると判断したものにその就任の依頼を行っております。

なお、社外取締役・社外監査役の各種サポートは取締役会の事務局として経営企画室が対応しております。重要な情報については、代表取締役社長または担当取締役、常勤監査役により直接社外取締役・社外監査役に対し報告及び説明を実施しております。

役員報酬等

）報酬等の総額及び役員の員数

当事業年度における、当社の取締役及び監査役に対する役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び役員の員数は以下のとおりであります。

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)		対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く)	224	196	28	8
監査役 (社外監査役を除く)	34	34	-	2
社外役員	9	9	0	3

）役員ごとの報酬等の総額

役員ごとの報酬等の総額が1億円を超えるものがないため、その記載を省略しております。

）使用人兼務役員の使用人分給与のうち重要なもの

該当事項はありません。

）役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方針

当社は役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針は定めておりません。なお、役員の報酬等の額の決定については株主総会の決議により定める旨定款に定めております。

株式の保有状況

) 投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額

銘柄数 88銘柄

貸借対照表計上額の合計額 2,817百万円

) 保有目的が純投資目的以外の目的である投資有価証券の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

前事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	952,850	531	企業間取引の強化
三菱電機(株)	298,000	225	企業間取引の強化
(株)ツムラ	50,454	175	企業間取引の強化
(株)丸久	120,146	111	企業間取引の強化
(株)みずほフィナンシャルグループ	532,043	105	企業間取引の強化
富士通(株)	270,082	104	企業間取引の強化
(株)三井住友フィナンシャルグループ	23,140	87	企業間取引の強化
大和ハウス工業(株)	43,227	78	企業間取引の強化
(株)トーモク	260,000	78	企業間取引の強化
日本ラッド(株)	407,910	76	株式の安定化
第一生命保険(株)	588	74	企業間取引の強化
(株)百十四銀行	189,000	73	企業間取引の強化
(株)ユーシン	115,000	72	株式の安定化
丸三証券(株)	87,749	61	企業間取引の強化
オムロン(株)	24,000	55	企業間取引の強化
(株)オンワードホールディングス	58,542	49	企業間取引の強化
カシオ計算機(株)	57,000	41	企業間取引の強化
ビジョン(株)	5,302	36	企業間取引の強化
富士電機(株)	112,419	30	企業間取引の強化
任天堂(株)	3,000	30	企業間取引の強化
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	63,000	27	企業間取引の強化
(株)河合楽器製作所	160,506	27	企業間取引の強化
ヤマトインターナショナル(株)	62,000	25	株式の安定化
(株)大京	69,909	22	企業間取引の強化
ニチアス(株)	40,350	22	企業間取引の強化
(株)東日本銀行	84,000	20	企業間取引の強化
(株)スクロール	71,384	20	企業間取引の強化
(株)清水銀行	7,105	20	企業間取引の強化
新電元工業(株)	50,000	18	企業間取引の強化
明治ホールディングス(株)	4,152	18	企業間取引の強化

当事業年度
特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	952,850	540	企業間取引の強化
三菱電機(株)	298,000	346	企業間取引の強化
富士通(株)	276,680	172	企業間取引の強化
(株)ツムラ	51,312	127	企業間取引の強化
(株)丸久	120,146	123	企業間取引の強化
(株)みずほフィナンシャルグループ	532,043	108	企業間取引の強化
オムロン(株)	24,000	102	企業間取引の強化
(株)三井住友フィナンシャルグループ	23,140	102	企業間取引の強化
第一生命保険(株)	58,800	88	企業間取引の強化
大和ハウス工業(株)	45,661	79	企業間取引の強化
(株)トーモク	260,000	76	企業間取引の強化
丸三証券(株)	87,749	74	企業間取引の強化
(株)ユーシン	115,000	71	株式の安定化
カシオ計算機(株)	57,000	69	企業間取引の強化
(株)百十四銀行	189,000	66	企業間取引の強化
富士電機(株)	116,905	53	企業間取引の強化
ピジョン(株)	10,604	49	企業間取引の強化
(株)オンワードホールディングス	67,377	48	企業間取引の強化
任天堂(株)	3,000	36	企業間取引の強化
(株)光通信	3,861	33	企業間取引の強化
東日本旅客鉄道(株)	4,400	33	企業間取引の強化
(株)河合楽器製作所	170,388	32	企業間取引の強化
ニチアス(株)	44,765	29	企業間取引の強化
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	63,000	29	企業間取引の強化
明治ホールディングス(株)	4,433	28	企業間取引の強化
ヤマトインターナショナル(株)	62,000	26	株式の安定化
(株)音通	567,000	26	企業間取引の強化
日東工業(株)	11,279	24	企業間取引の強化
新電元工業(株)	50,000	22	企業間取引の強化
(株)東日本銀行	84,000	21	企業間取引の強化

）保有目的が純投資である投資株式の前事業年度及び当事業年度における貸借対照表計上額の合計額並びに当事業年度における受取配当金、売却損益及び評価損益の合計額
該当事項はありません。

当社のコーポレート・ガバナンスの充実に向けた取り組みの最近1年間の実施状況

コーポレート・ガバナンスの取り組みにつきましては、経営の公正性、公平性、透明性、遵法性を高める上で非常に重要と考えております。当社は、監査役会設置会社であります。当社は、社外役員を招聘（取締役1名、監査役3名）し、さらにリスク・コンプライアンス推進委員会を運営し、コーポレート・ガバナンスの充実に向けた取り組みを行ってまいりました。また、全従業員を対象としたeラーニングによる研修等を定期的を実施し、コンプライアンス体制の強化、コンプライアンス意識の向上を図っております。

取締役の定数

当社の取締役は15名以内とする旨を定款に定めております。

責任限定契約の内容の概要

当社は、取締役会の決議によって、取締役（取締役であったものを含む。）の会社法第423条第1項の賠償責任について法令に定める要件に該当する場合には賠償責任額から法令に定める最低責任限度額を控除して得た額を限度として免除することができるものと定めております。また、当社は社外取締役との間で、会社法第423条第1項の賠償責任について法令に定める要件に該当する場合には賠償責任を限定する契約を締結することができるものと定めております。ただし、当該契約に基づく賠償責任の限度額は、法令の定める最低責任限度額と定めております。これは、取締役及び社外取締役が期待される役割を十分に発揮することを目的とするものであります。

取締役の選任の決議要件

取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行うこととしております。なお、取締役の選任決議は、累積投票によらないこととしております。

剰余金の配当等の決定機関

当社は、剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項については、法令に別段の定めがある場合を除き、取締役会の決議により行うことができる旨を定款に定めております。これは、剰余金の配当等を取締役会の権限とすることにより、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものであります。

自己の株式の取得の決定機関

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。これは、自己株式の取得を取締役会の権限とすることにより、機動的な資本政策を可能にすることを目的とするものであります。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	62	-	62	-
連結子会社	-	-	-	-
計	62	-	62	-

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

種々の要因により監査執務の増減がある場合、監査法人はあらかじめ契約された報酬額の改訂を申し出ることができ、双方誠意をもって協議・決定するものとしております。

第5【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、当連結会計年度（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで）の連結財務諸表に含まれる比較情報については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」（平成24年9月21日内閣府令第61号）附則第3条第2項により、改正前の連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、当事業年度（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで）の財務諸表に含まれる比較情報については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」（平成24年9月21日内閣府令第61号）附則第2条第2項により、改正前の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで）の連結財務諸表及び事業年度（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで）の財務諸表について、太陽A S G有限責任監査法人により監査を受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取り組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取り組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、適正な財務報告を行う体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し情報の収集・把握に努めております。また、監査法人等が行う研修会に参加する等、財務報告活動に携わる人員の教育にも努めております。

1【連結財務諸表等】

(1)【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4 16,862	4 13,094
受取手形及び売掛金	6 20,756	30,407
たな卸資産	1, 2 8,744	1, 2 7,618
繰延税金資産	1,004	1,099
未収還付法人税等	35	3
その他	1,156	1,268
貸倒引当金	13	10
流動資産合計	48,546	53,481
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,648	1,636
減価償却累計額	727	764
建物及び構築物(純額)	921	871
機械装置及び運搬具	10	10
減価償却累計額	9	9
機械装置及び運搬具(純額)	1	1
土地	2,334	2,333
リース資産	935	1,199
減価償却累計額	429	520
リース資産(純額)	506	679
建設仮勘定	832	490
その他	789	788
減価償却累計額	666	690
その他(純額)	123	97
有形固定資産合計	4,719	4,473
無形固定資産		
のれん	262	168
リース資産	497	862
その他	573	872
無形固定資産合計	1,333	1,903
投資その他の資産		
投資有価証券	3, 4 3,810	3, 4 4,293
長期貸付金	163	108
繰延税金資産	3,242	3,504
長期預金	900	900
その他	1,473	1,530
貸倒引当金	153	149
投資その他の資産合計	9,436	10,188
固定資産合計	15,489	16,566
資産合計	64,036	70,048

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,617,995	4,19,080
短期借入金	10,793	7,804
1年内返済予定の長期借入金	4,283,36	4,96
リース債務	492	652
未払法人税等	402	1,108
賞与引当金	2,033	2,253
受注損失引当金	152	124
その他	3,289	3,581
流動負債合計	37,994	34,700
固定負債		
長期借入金	190	4,7,034
リース債務	648	1,159
繰延税金負債	1	1
退職給付引当金	6,964	-
退職給付に係る負債	-	8,004
長期未払金	187	158
負ののれん	0	-
その他	5	5
固定負債合計	7,996	16,362
負債合計	45,991	51,063
純資産の部		
株主資本		
資本金	9,812	9,812
資本剰余金	4,102	4,099
利益剰余金	14,231	15,117
自己株式	10,560	10,445
株主資本合計	17,586	18,585
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	474	696
繰延ヘッジ損益	0	0
為替換算調整勘定	16	25
退職給付に係る調整累計額	-	322
その他の包括利益累計額合計	458	399
純資産合計	18,045	18,984
負債純資産合計	64,036	70,048

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
売上高	100,651	110,670
売上原価	3 84,449	3 92,816
売上総利益	16,202	17,854
販売費及び一般管理費	1, 2 15,256	1, 2 15,789
営業利益	945	2,065
営業外収益		
受取利息	18	10
受取配当金	59	70
受取保険金	-	68
保険配当金	64	42
負ののれん償却額	34	0
為替差益	8	9
その他	78	89
営業外収益合計	263	291
営業外費用		
支払利息	207	165
支払手数料	116	52
その他	58	74
営業外費用合計	382	291
経常利益	827	2,065
特別利益		
固定資産売却益	-	4 25
投資有価証券売却益	598	34
関係会社株式売却益	-	0
災害損失引当金戻入額	17	-
特別利益合計	615	60
特別損失		
ゴルフ会員権評価損	-	1
たな卸資産除却損	-	15
固定資産除却損	5 18	5 4
減損損失	7 22	7 8
投資有価証券売却損	9	-
投資有価証券評価損	-	4
事務所移転費用	-	0
特別退職金	6 128	6 121
仕組預金解約損	237	-
特別損失	415	155
税金等調整前当期純利益	1,027	1,969
法人税、住民税及び事業税	665	1,329
過年度法人税等	29	-
法人税等調整額	113	341
法人税等合計	581	987
少数株主損益調整前当期純利益	446	982
当期純利益	446	982

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	446	982
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	452	222
繰延ヘッジ損益	0	0
為替換算調整勘定	48	42
その他の包括利益合計	1, 2 501	1, 2 263
包括利益	947	1, 245
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	947	1, 245
少数株主に係る包括利益	-	-

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	9,812	4,104	13,933	345	27,504
当期変動額					
剰余金の配当			148		148
当期純利益			446		446
自己株式の取得				10,317	10,317
自己株式の処分		1		102	100
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	1	297	10,214	9,918
当期末残高	9,812	4,102	14,231	10,560	17,586

	その他の包括利益累計額					純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	退職給付に係る調 整累計額	その他の包括利 益累計額合計	
当期首残高	22	-	65	-	43	27,461
当期変動額						
剰余金の配当						148
当期純利益						446
自己株式の取得						10,317
自己株式の処分						100
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	452	0	48	-	501	501
当期変動額合計	452	0	48	-	501	9,416
当期末残高	474	0	16	-	458	18,045

当連結会計年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	9,812	4,102	14,231	10,560	17,586
当期変動額					
剰余金の配当			95		95
当期純利益			982		982
自己株式の取得				3	3
自己株式の処分		2		118	115
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	2	886	114	998
当期末残高	9,812	4,099	15,117	10,445	18,585

	その他の包括利益累計額					純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	474	0	16	-	458	18,045
当期変動額						
剰余金の配当						95
当期純利益						982
自己株式の取得						3
自己株式の処分						115
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	222	0	42	322	58	58
当期変動額合計	222	0	42	322	58	939
当期末残高	696	0	25	322	399	18,984

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	1,027	1,969
減価償却費	837	1,085
のれん償却額	101	93
負ののれん償却額	34	0
貸倒引当金の増減額（は減少）	11	7
退職給付引当金の増減額（は減少）	622	-
退職給付に係る負債の増減額（は減少）	-	539
受注損失引当金の増減額（は減少）	125	27
災害損失引当金の増減額（は減少）	17	-
その他の引当金の増減額（は減少）	92	219
受取利息及び受取配当金	77	81
支払利息	207	165
為替差損益（は益）	21	15
ゴルフ会員権評価損	-	1
固定資産除売却損益（は益）	18	21
減損損失	22	8
投資有価証券売却損益（は益）	589	34
投資有価証券評価損益（は益）	-	4
その他の営業外損益（は益）	400	26
売上債権の増減額（は増加）	5,700	9,558
たな卸資産の増減額（は増加）	1,151	1,160
その他の資産の増減額（は増加）	2	385
仕入債務の増減額（は減少）	2,007	966
その他の負債の増減額（は減少）	39	276
小計	8,788	3,614
利息及び配当金の受取額	84	82
利息の支払額	207	161
特別退職金の支払額	115	124
その他	234	97
法人税等の支払額	807	648
法人税等の還付額	2	46
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,511	4,321

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	300	0
定期預金の払戻による収入	3,300	-
有形固定資産の取得による支出	1,498	1,377
有形固定資産の売却による収入	639	1,841
無形固定資産の取得による支出	330	223
投資有価証券の取得による支出	37	175
投資有価証券の売却による収入	2,024	106
貸付けによる支出	2	4
貸付金の回収による収入	6	15
その他の収入	142	97
その他の支出	124	68
投資活動によるキャッシュ・フロー	3,820	211
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	4,104	30
短期借入金の返済による支出	1,450	3,080
長期借入れによる収入	2,000	6,950
長期借入金の返済による支出	296	2,846
リース債務の返済による支出	590	733
自己株式の取得による支出	10,317	3
自己株式の処分による収入	100	67
配当金の支払額	148	95
財務活動によるキャッシュ・フロー	6,597	288
現金及び現金同等物に係る換算差額	68	53
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	4,803	3,768
現金及び現金同等物の期首残高	11,981	16,784
現金及び現金同等物の期末残高	1 16,784	1 13,016

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 12社

主要な連結子会社の名称

連結子会社については、「第1 企業の概況」の「4. 関係会社の状況」に記載しております。

(2) 非連結子会社の名称等

都築オフィスサービス㈱、アーチ㈱

非連結子会社は小規模であり、合計の総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等はいずれも連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、全体としても重要性はありません。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用の関連会社数 - 社

(2) 持分法を適用していない非連結子会社及び関連会社(主要な非連結子会社都築オフィスサービス㈱、関連会社東都電気㈱)は、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等の連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、持分法の適用から除外しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、都築電産貿易(上海)有限公司の決算日は12月31日であります。連結財務諸表の作成に当たっては、連結決算日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表を使用しております。

なお、その他の連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致しております。

4. 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のあるもの 連結決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定)

時価のないもの 移動平均法による原価法

デリバティブ

時価法

たな卸資産

a 仕掛品

個別法による原価法

(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

b 商品及び製品、原材料及び貯蔵品

先入先出法による原価法

(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

提出会社及び連結子会社は定率法を採用しております。

(ただし、提出会社及び連結子会社は、平成10年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)は定額法によっております。)

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 3~50年

機械装置及び運搬具 3~10年

無形固定資産(リース資産を除く)

提出会社及び連結子会社は定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

また、販売用ソフトウェアについては当該販売用ソフトウェアの販売可能期間で均等償却を行っております。

リース資産
所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。
長期前払費用
提出会社及び連結子会社は定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

売掛金、貸付金等の債権の貸倒れによる損失に備えるため、回収不能見込額を計上しております。

a 一般債権

貸倒実績率法によっております。

b 貸倒懸念債権及び破産更生債権

財務内容評価法によっております。

賞与引当金

主として従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、その支給見込額に基づき当連結会計年度に見合う分を計上しております。

受注損失引当金

システムソリューションの請負等に係る受注案件のうち、当連結会計年度末時点で将来に損失が発生する可能性が高いと見込まれ、かつ当該損失額を合理的に見積ることが可能なものについては、受注損失に備えるため、将来の損失見積額を計上しております。

(4) 退職給付に係る負債

退職給付に係る負債は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における見込額に基づき、退職給付債務から年金資産を控除した額を計上しております。

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（主として15年）による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（主として15年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理しております。

会計基準変更時差異（7,609百万円）については、15年による按分額を費用処理しております。

未認識数理計算上の差異、未認識過去勤務費用及び会計基準変更時差異については、税効果を調整の上、純資産の部におけるその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に計上しております。

(5) 重要な収益及び費用の計上基準

完成工事高及び完成工事原価の計上基準

当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる開発契約

工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）

その他の開発契約

検収基準

(6) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社等の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めて計上しております。

(7) 重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

為替予約等が付されている外貨建金銭債権債務については、振当処理を行っております。また、特例処理の要件を満たしている金利スワップについては特例処理によっております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

a ヘッジ手段

為替予約

ヘッジ対象

外貨建金銭債権債務

b ヘッジ手段

金利スワップ

ヘッジ対象

借入金

ヘッジ方針

ヘッジ対象に係る将来の為替相場の変動リスク及び金利変動リスクを回避する目的で、為替予約取引及び金利スワップ取引を行っております。

ヘッジ有効性評価の方法

為替予約の締結時に、リスク管理方針に従って、米貨建による同一金額で同一期日の為替予約をそれぞれ振当てているため、その後の為替相場の変動による相関関係は完全に確保されており、その判定をもって有効性の判定に代えております。(決算日における有効性の評価を省略しております。)

また、金利スワップ取引については、特例処理であるため有効性の評価を省略しております。

(8) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、5年間の定額法により償却を行っております。ただし、金額が僅少な場合は、発生した期において一時に償却しております。

(9) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金及び取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない短期的な投資からなっております。

(10) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(会計方針の変更)

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を当連結会計年度末より適用し(ただし、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めを除く。)、退職給付債務から年金資産の額を控除した額を退職給付に係る負債として計上する方法に変更し、未認識数理計算上の差異、未認識過去勤務費用及び会計基準変更時差異の未処理額を退職給付に係る負債に計上しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従っており、当連結会計年度末において、当該変更に伴う影響額をその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に加減しております。

この結果、当連結会計年度末において、退職給付に係る負債が8,004百万円計上されるとともに、その他の包括利益累計額が322百万円減少しております。

(未適用の会計基準等)

- ・「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日)
- ・「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日)

(1) 概要

未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の処理方法、退職給付債務及び勤務費用の計算方法並びに開示の拡充等について改正されました。

(2) 適用予定日

退職給付債務及び勤務費用の計算方法の改正については、平成27年3月期の期首から適用します。

なお、当該会計基準等には経過的な取扱いが定められているため、過去の期間の連結財務諸表に対しては遡及適用しません。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

当該会計基準等を適用することにより、翌連結会計年度の期首において、利益剰余金が25百万円減少する予定であります。また、翌連結会計年度の営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益は、それぞれ12百万円減少する予定であります。

- ・「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第30号 平成25年12月25日)

(1) 概要

本会計基準等は、従業員持株会に信託を通じて自社の株式を交付する取引及び自社の株式を受取ることができる権利(受給権)を付与された従業員に信託を通じて自社の株式を交付する取引について会計処理を定めたものです。

(2) 適用予定日

平成27年3月期の期首から適用します。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

連結財務諸表に与える影響はありません。

(連結貸借対照表関係)

1 たな卸資産の内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
商品及び製品	2,751百万円	3,129百万円
仕掛品	4,442	3,326
原材料及び貯蔵品	1,550	1,162

2 システムソリューションの請負等に係る受注案件のうち、損失が見込まれる受注案件に係るたな卸資産と受注損失引当金は相殺せずに両建てで表示しております。損失発生が見込まれる受注案件に係るたな卸資産のうち、受注損失引当金に対応する額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
仕掛品	227百万円	217百万円

3 非連結子会社及び関連会社項目
非連結子会社及び関連会社に対するものは次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
投資有価証券(株式)	23百万円	23百万円

4 担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
現金及び預金	7百万円	7百万円
投資有価証券	72	75
上記に対応する債務		
仕入債務	160	136
一年内返済予定の長期借入金	260	20
長期借入金	-	220

5 保証債務
連結会社以外の金融機関からの借入金に対して次のとおり保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
従業員	486百万円	412百万円

6 期末日満期手形及び売掛金の処理

期末日満期手形及び売掛金の会計処理は手形交換日または実際の入金日をもって決済処理しております。なお、前連結会計年度の末日は金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形及び期末日指定振込等の売掛金が期末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
受取手形	78百万円	-百万円
売掛金	519	-
支払手形	88	-

(連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち、主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)
旅費交通費	538百万円	572百万円
役員報酬及び従業員給料手当	7,367	7,607
退職給付費用	1,248	1,257
賞与引当金繰入額	837	1,054
役員退職慰労引当金繰入額	2	-
地代及び家賃	820	731
減価償却費	343	534
貸倒引当金繰入額	4	4

2 一般管理費に含まれる研究開発費

	前連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)
	250百万円	176百万円

3 売上原価に含まれている受注損失引当金繰入額

	前連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)
	149百万円	124百万円

4 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)
建物及び構築物	- 百万円	25百万円
計	-	25

5 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)
建物及び構築物	14百万円	1百万円
機械装置及び運搬具	0	0
工具器具及び備品	2	2
その他(無形固定資産)	1	-
投資その他の資産	-	0
計	18	4

6 特別退職金の主な内容は、早期退職優遇措置による退職者の特別加算金等であります。

7 減損損失

当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。
 前連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

場所	用途	種類	減損損失（百万円）
東京都調布市	技術開発センター	土地及び建物	18
その他	車載機器事業	のれん	3

当社グループは、管理会計上の区分に基づきグルーピングを行っております。土地及び建物については収益性が低下しており、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として認識しました。回収可能価額は正味売却価額により測定しており、その評価額は、固定資産税評価額等を基礎に、合理的な調整を行って評価しております。また、のれんについては売却や他の転用が困難なため零としています。

当連結会計年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

場所	用途	種類	減損損失（百万円）
北海道千歳市	社宅	建物	8

当社グループは、管理会計上の区分に基づきグルーピングを行っております。上記建物については、当初の予定より著しく早期に処分されると見込まれた資産について帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（8百万円）として認識しました。なお、当該資産の回収可能価額は正味売却価額により測定しており、その評価額は、不動産鑑定士による査定額を基準にして評価しております。

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	781百万円	415百万円
組替調整額	129	29
計	651	386
繰延ヘッジ損益：		
当期発生額	1	0
計	1	0
為替換算調整勘定：		
当期発生額	48	42
計	48	42
税効果調整前合計	701	427
税効果額	199	163
その他の包括利益合計	501	263

2 その他の包括利益に係る税効果額

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
税効果調整前	651百万円	386百万円
税効果額	199	163
税効果調整後	452	222
繰延ヘッジ損益：		
税効果調整前	1	0
税効果額	0	0
税効果調整後	0	0
為替換算調整勘定：		
税効果調整前	48	42
税効果額	-	-
税効果調整後	48	42
その他の包括利益合計		
税効果調整前	701	427
税効果額	199	163
税効果調整後	501	263

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成24年4月1日至平成25年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期 首株式数(千株)	当連結会計年度増 加株式数(千株)	当連結会計年度減 少株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	25,677			25,677
合計	25,677			25,677
自己株式				
普通株式(注)1、2	484	13,400	134	13,751
合計	484	13,400	134	13,751

(注)1 当連結会計年度末の株式数には、従業員持株ESOP信託口が保有する当社株式279千株を含めて記載してあります。

2 普通株式の自己株式の株式数の増加13,400千株は、公開買付による増加13,393千株、単元未満株式の買取りによる増加7千株であります。また、普通株式の自己株式の株式数の減少134千株は、従業員持株ESOP信託口による当社持株会への当社保有自己株式の売却134千株であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成24年5月11日 取締役会	普通株式	(注)100	4	平成24年3月31日	平成24年6月12日
平成24年10月26日 取締役会	普通株式	(注)47	4	平成24年9月30日	平成24年11月30日

(2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成25年5月10日 取締役会	普通株式	(注)47	利益剰余金	4	平成25年3月31日	平成25年6月10日

(注) 配当金の総額には、従業員持株ESOP信託口に対する配当金を含めておりません。これは、従業員持株ESOP信託口が保有する当社株式を自己株式として認識しているためです。

当連結会計年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首株式数（千株）	当連結会計年度増加株式数（千株）	当連結会計年度減少株式数（千株）	当連結会計年度末株式数（千株）
発行済株式				
普通株式	25,677	-	-	25,677
合計	25,677	-	-	25,677
自己株式				
普通株式（注）1、2	13,751	7	153	13,605
合計	13,751	7	153	13,605

（注）1 当連結会計年度末の株式数には、従業員持株ESOP信託口が保有する当社株式126千株を含めて記載しております。

2 普通株式の自己株式の株式数の増加7千株は、単元未満株式の買取りによる増加7千株であります。また、普通株式の自己株式の株式数の減少153千株は、従業員持株ESOP信託口による当社持株会への当社保有自己株式の売却153千株、単元未満株式の売渡による売却0千株であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の総額（百万円）	1株当たり配当額（円）	基準日	効力発生日
平成25年5月10日 取締役会	普通株式	（注）47	4	平成25年3月31日	平成25年6月10日
平成25年10月25日 取締役会	普通株式	（注）48	4	平成25年9月30日	平成25年11月29日

(2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

（決議）	株式の種類	配当金の総額（百万円）	配当の原資	1株当たり配当額（円）	基準日	効力発生日
平成26年4月30日 取締役会	普通株式	（注）96	利益剰余金	8	平成26年3月31日	平成26年6月9日

（注）配当金の総額には、従業員持株ESOP信託口に対する配当金を含めておりません。これは、従業員持株ESOP信託口が保有する当社株式を自己株式として認識しているためです。

（連結キャッシュ・フロー計算書関係）

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 （自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）	当連結会計年度 （自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）
現金及び預金勘定	16,862百万円	13,094百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	77	77
現金及び現金同等物	16,784	13,016

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に関する取り組み方針

当社グループは、主に情報通信業を行うための設備投資計画等に照らして、必要な資金を銀行借入により調達しております。一時的な余資は安全性の高い金融資産で運用し、また、短期的な運用資金は銀行借入金により調達しております。デリバティブ取引は、後述するリスクを回避するために利用し、投機的な取引は行っておりません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスクならびにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクにさらされております。当該リスクに関しては、当社グループ各社の与信管理基準に則り、取引先毎の期日管理及び残高管理を行うとともに、信用状況を把握する体制を整えております。また、その一部には機器等の売上に伴う外貨建のものがあり、為替変動リスクにさらされておりますが、先物為替予約を利用してリスクヘッジしております。

投資有価証券は、主に取引先との業務等に関連する株式であり、市場価格の変動リスクにさらされておりますが、把握された時価は定期的に取り締役に報告されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は1年以内の支払期日となっており、その決済時において流動性リスクにさらされておりますが、当社グループでは、各社が毎月資金繰計画を見直す等の方法によりそのリスクを回避しております。また、その一部には機器等の仕入に伴う外貨建のものがあり、為替変動リスクにさらされておりますが、先物為替予約を利用してリスクヘッジしております。

借入金のうち、短期借入金は主として営業取引に係る資金調達であり、長期借入金は主に設備投資及び融資に係る資金調達となっております。変動金利の借入金は、金利変動リスクにさらされておりますが、長期借入を変動金利で実施し、その支払金利の変動リスクを回避して支払利息の固定化を図る場合には、ヘッジの有効性の評価において金利スワップ取引の特例処理の要件を満たしていることを前提に個別契約ごとに金利スワップ取引をヘッジ手段として利用することを原則としております。

ファイナンス・リース取引に係るリース債務は、主に設備投資に必要な資金の調達を目的としたものであり、償還日は決算日後最長で5年4ヶ月後となっております。

デリバティブ取引は、前述のとおり外貨建営業債権債務に係る為替の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした先物為替予約と、長期借入金に係る金利変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした金利スワップを行っており、格付の高い金融機関との間でのみ行うこととしております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては、変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。また、注記事項「デリバティブ取引関係」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注）2参照）。

前連結会計年度（平成25年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
(1) 現金及び預金	16,862	16,862	-
(2) 受取手形及び売掛金	20,756	20,756	-
(3) 投資有価証券 その他有価証券(*1)	3,704	3,704	-
(4) 長期預金	900	863	36
資産計	42,223	42,187	36
(1) 支払手形及び買掛金	17,995	17,995	-
(2) 短期借入金	10,793	10,793	-
(3) 長期借入金(*2)	3,026	3,028	2
(4) リース債務(*2)	1,140	1,140	-
負債計	32,955	32,957	2
デリバティブ取引(*3)	-	-	-

(*1) 1年内期限到来の有価証券を含めております。

(*2) 1年内返済予定の長期借入金及びリース債務を含めております。

(*3) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、()で表示しております。

当連結会計年度（平成26年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
(1) 現金及び預金	13,094	13,094	-
(2) 受取手形及び売掛金	30,407	30,407	-
(3) 投資有価証券 その他有価証券(*1)	4,187	4,187	-
(4) 長期預金	900	877	22
資産計	48,589	48,567	22
(1) 支払手形及び買掛金	19,080	19,080	-
(2) 短期借入金	7,804	7,804	-
(3) 長期借入金(*2)	7,130	7,130	0
(4) リース債務(*2)	1,812	1,812	-
負債計	35,826	35,826	0
デリバティブ取引(*3)	-	-	-

(*1) 1年内期限到来の有価証券を含めております。

(*2) 1年内返済予定の長期借入金及びリース債務を含めております。

(*3) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、()で表示しております。

(注)1 金融商品の時価の算定方法ならびに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項
資産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済される性格のものであるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいといえることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

時価については、株式は取引所の価格によっております。また、債券は金融機関から提供された価格をもとに算定してしております。

(4) 長期預金

長期預金の時価については、金融機関から提供された参考値をもとに時価を算定してしております。

負債

(1) 支払手形及び買掛金、(2) 短期借入金

これらは短期間で決済される性格のものであるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいといえることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

(4) リース債務

リース債務の時価は、同一の残存期間で同条件のリース契約を締結する場合の金利を用いて、元利金の合計額を割引く方法によって見積った結果、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから当該帳簿価額によっております。

デリバティブ取引

為替予約の時価については、金融機関から提示された価格等によっております。

2 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品 (単位：百万円)

区分	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
投資有価証券 非上場株式	82	82
関係会社株式 非上場株式	23	23

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから「(3)投資有価証券」には含めておりません。

3 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額
前連結会計年度（平成25年3月31日）

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	16,862	-	-	-
受取手形及び売掛金	20,756	-	-	-
投資有価証券				
その他有価証券のうち 満期があるもの				
債券（社債）	-	-	-	1,100
長期預金	-	600	-	300
合計	37,619	600	-	1,400

当連結会計年度（平成26年3月31日）

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	13,094	-	-	-
受取手形及び売掛金	30,407	-	-	-
投資有価証券				
その他有価証券のうち 満期があるもの				
(1) 債券（社債）	-	-	-	1,100
(2) その他	-	-	95	-
長期預金	300	300	-	300
合計	43,802	300	95	1,400

4 借入金及びリース債務の連結決算日後の返済予定額
前連結会計年度（平成25年3月31日）

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	10,793	-	-	-	-	-
長期借入金	2,836	76	76	38	-	-
リース債務	492	366	199	69	11	0
合計	14,121	442	275	107	11	0

当連結会計年度（平成26年3月31日）

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	7,804	-	-	-	-	-
長期借入金	96	96	6,938	-	-	-
リース債務	652	509	378	204	61	5
合計	8,552	605	7,316	204	61	5

(有価証券関係)

前連結会計年度(平成25年3月31日)

1. その他有価証券

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価 を超えるもの			
株式	2,298	1,458	840
債券	-	-	-
その他	-	-	-
小計	2,298	1,458	840
連結貸借対照表計上額が取得原価 を超えないもの			
株式	343	401	58
債券	979	1,100	120
その他	82	83	0
小計	1,405	1,585	179
合計	3,704	3,044	660

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額106百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上記の「その他有価証券」には含めておりません。

2. 当連結会計年度中に売却したその他有価証券(自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)

種類	売却額(百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
(1) 株式	927	590	5
(2) 債券			
国債・地方債等	-	-	-
社債	-	-	-
その他	-	-	-
(3) その他	77	8	3
合計	1,004	598	9

当連結会計年度（平成26年3月31日）

1. その他有価証券

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価 を超えるもの			
株式	2,805	1,590	1,215
債券	-	-	-
その他	-	-	-
小計	2,805	1,590	1,215
連結貸借対照表計上額が取得原価 を超えないもの			
株式	231	269	37
債券	974	1,100	125
その他	175	181	5
小計	1,381	1,550	168
合計	4,187	3,141	1,046

(注) 非上場株式（連結貸借対照表計上額106百万円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上記の「その他有価証券」には含めておりません。

2. 当連結会計年度中に売却したその他有価証券（自平成25年4月1日 至平成26年3月31日）

種類	売却額（百万円）	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
(1) 株式	106	34	-
(2) 債券			
国債・地方債等	-	-	-
社債	-	-	-
その他	-	-	-
(3) その他	-	-	-
合計	106	34	-

(デリバティブ取引関係)

前連結会計年度(自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)

1.ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(1) 通貨関連

重要性に乏しいため、その記載を省略しております。なお、時価の算定に当たっては取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

(2) 金利関連

該当するものではありません。

2.ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 通貨関連

重要性が乏しいため記載を省略しております。

(2) 金利関連

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	前連結会計年度(平成25年3月31日)		
			契約額等 (百万円)	契約額等 のうち1年超 (百万円)	時価 (百万円)
金利スワップの特 例処理	金利スワップ取引 変動受取・固定支 払	長期借入金	500	-	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度(自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)

1.ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(1) 通貨関連

重要性に乏しいため、その記載を省略しております。なお、時価の算定に当たっては取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

(2) 金利関連

該当するものではありません。

2.ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 通貨関連

重要性が乏しいため記載を省略しております。

(2) 金利関連

該当するものではありません。

(退職給付関係)

前連結会計年度(自平成24年4月1日至平成25年3月31日)

1. 採用している退職給付制度の概要

提出会社及び連結子会社は、確定給付型の制度として、厚生年金基金制度、確定給付企業年金制度及び退職一時金制度を設けております。また、従業員の退職等に際して、退職給付に準拠した数理計算による退職給付債務の対象とされない割増退職金を支払う場合があります。

当連結会計年度において、一部の国内連結子会社は、従来の適格退職年金制度から確定給付企業年金制度へ移行しております。

提出会社については、勤続7年以上の退職者の退職金について信託会社の設定した加入期間定額制の確定給付企業年金制度を採用しております。また、連結子会社1社については退職給付信託を設定しております。

なお、提出会社及び連結子会社6社が要拠出額を退職給付費用として処理している複数事業主制度に関する事項は次のとおりであります。

(1) 制度全体の積立状況に関する事項

年金資産の額	180,489百万円
年金財政計算上の給付債務の額	189,105百万円
差引額	8,616百万円

(2) 制度全体に含める当社グループの掛金拠出割合

前連結会計年度 9.8%(自平成24年4月1日至平成25年3月31日)

(3) 補足説明

前連結会計年度(平成25年3月31日)

上記(1)の差引額の主な要因は、年金財政計算上の過去勤務債務残高23,276百万円であります。本制度における過去勤務債務の償却方法は償却期間20年の元利均等償却であります。当社グループは、当期の連結財務諸表上、特別掛金287百万円を費用処理しております。

なお、上記(2)の割合は、当社グループの実際の負担割合とは一致しません。

2. 退職給付債務及びその内訳

(1) 退職給付債務	22,539
(2) 年金資産	11,163
(3) 退職給付信託	2,302
(4) 未積立退職給付債務(1)+(2)+(3)	9,074
(5) 会計基準変更時差異の未処理額	1,011
(6) 未認識数理計算上の差異	1,597
(7) 未認識過去勤務債務(債務の減額)	499
(8) 連結貸借対照表計上額純額 (4)+(5)+(6)+(7)	6,964
(9) 前払年金費用	-
(10) 退職給付引当金(8)-(9)	6,964

(注)一部の連結子会社は、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。

3. 退職給付費用の内訳

(1) 勤務費用	1,014
(2) 利息費用	424
(3) 期待運用収益(減算)	185
(4) 会計基準変更時差異の費用処理額	505
(5) 過去勤務債務の費用処理額	41
(6) 数理計算上の差異の費用処理額	352
(7) 臨時に支払った割増退職金	128
(8) 退職給付費用 (1)+(2)+(3)+(4)+(5)+(6)+(7)	2,197

(注)厚生年金基金に関する拠出額739百万円(従業員拠出額は除く)は含まれておりません。

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

(1) 割引率	主として 2.0%
(2) 期待運用収益率	主として 2.0%
(3) 退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準
(4) 会計基準変更時差異の処理年数	15年
(5) 過去勤務債務の額の処理年数	主として15年
(6) 数理計算上の差異の処理年数	主として15年

当連結会計年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、従業員の退職給付に充てるため、積立型、非積立型の確定給付制度を採用しております。

確定給付企業年金制度（すべて積立型制度であります。）では、給与と勤務期間に基づいた一時金又は年金を支給します。

なお、一部の確定給付企業年金制度には、退職給付信託が設定されております。

退職一時金制度（非積立型制度ですが、退職給付信託を設定した結果、積立型制度となっているものがあります。）では、退職給付として、給与と勤務期間に基づいた一時金を支給します。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

退職給付債務の期首残高	22,513百万円
勤務費用	1,013
利息費用	415
数理計算上の差異の発生額	20
退職給付の支払額	992
退職給付債務の期末残高	22,950

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

年金資産の期首残高	13,482百万円
期待運用収益	219
数理計算上の差異の発生額	819
事業主からの拠出額	1,006
退職給付の支払額	581
年金資産の期末残高	14,946

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

積立型制度の退職給付債務	19,713百万円
年金資産	14,946
	4,767
非積立型制度の退職給付債務	3,236
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	8,004
退職給付に係る負債	8,004
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	8,004

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

勤務費用	1,013百万円
利息費用	415
期待運用収益	219
数理計算上の差異の費用処理額	293
過去勤務費用の費用処理額	41
会計基準変更時差異の費用処理額	496
確定給付制度に係る退職給付費用	1,957

(5) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

未認識過去勤務費用	457百万円
未認識数理計算上の差異	461
会計基準変更時差異の未処理額	496
合 計	500

(6) 年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

債券	34%
株式	22
一般勘定	36
その他	8
合 計	100

(注) 年金資産合計には、企業年金制度及び退職一時金制度に対して設定した退職給付信託が16.3%含まれております。

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(7) 数理計算上の計算基礎に関する事項

当連結会計年度末における主要な数理計算上の計算基礎（加重平均で表わしております。）

割引率 主として2.0%
 長期期待運用収益率 主として2.0%

3. 複数事業主制度

(1) 複数事業主制度の直近の積立状況（平成26年3月31日現在）

年金資産の額	177,115百万円
年金財政計算上の給付債務の額	177,490百万円
差引額	374百万円

(2) 複数事業主制度の掛金に占める当社グループの割合（自 平成25年4月1日 至平成26年3月31日）
 9.9%

(3) 補足説明

上記(1)の差引額の主な要因は、年金財政計算上の過去勤務債務残高21,201百万円であります。本制度における過去勤務債務の償却方法は償却期間20年の元利均等償却であります。当社グループは、当期の連結財務諸表上、特別掛金287百万円を費用処理しております。

なお、上記(2)の割合は、当社グループの実際の負担割合とは一致しません。

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

前連結会計年度 (平成25年3月31日)		当連結会計年度 (平成26年3月31日)	
1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生的主要原因別の内訳		1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生的主要原因別の内訳	
繰延税金資産(流動)		繰延税金資産(流動)	
賞与引当金損金算入限度超過額	758百万円	賞与引当金損金算入限度超過額	803百万円
未払事業税等否認額	77	未払事業税等否認額	105
未払金否認額	98	未払費用否認額	106
その他	112	その他	125
	小計 1,047		小計 1,140
評価性引当額	42	評価性引当額	40
繰延税金資産(流動)	計 1,004	繰延税金資産(流動)	計 1,099
繰延税金資産(固定)		繰延税金資産(固定)	
役員退職慰労引当金否認額	18	役員退職慰労引当金否認額	14
退職給付費用否認額	3,286	退職給付費用否認額	3,462
貸倒引当金繰入限度超過額	107	貸倒引当金繰入限度超過額	150
投資有価証券評価損否認額	64	投資有価証券評価損否認額	64
会員権評価損否認額	49	会員権評価損否認額	50
減損損失否認額	355	減損損失否認額	355
敷金否認額	89	敷金否認額	89
税務上の繰越欠損金	58	税務上の繰越欠損金	58
その他	93	その他	322
	小計 4,123		小計 4,569
評価性引当額	697	評価性引当額	714
繰延税金資産(固定)	計 3,425	繰延税金資産(固定)	計 3,854
繰延税金負債(流動)		繰延税金負債(流動)	
その他	2	その他	3
繰延税金負債(流動)	計 2	繰延税金負債(流動)	計 3
繰延税金負債(固定)		繰延税金負債(固定)	
その他有価証券評価差額金	183	その他有価証券評価差額金	349
その他	0	その他	1
繰延税金負債(固定)	計 184	繰延税金負債(固定)	計 351
繰延税金資産の純額	合計 4,244	繰延税金資産の純額	合計 4,600

前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)																																						
<p>2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">法定実効税率</td> <td style="text-align: right;">38.0%</td> </tr> <tr> <td colspan="2">(調整)</td> </tr> <tr> <td>交際費等永久に損金に算入されない項目</td> <td style="text-align: right;">8.9</td> </tr> <tr> <td>受取配当金等永久に益金に算入されない項目</td> <td style="text-align: right;">0.7</td> </tr> <tr> <td>住民税均等割額</td> <td style="text-align: right;">5.4</td> </tr> <tr> <td>過年度法人税等</td> <td style="text-align: right;">2.9</td> </tr> <tr> <td>評価性引当額の増減額</td> <td style="text-align: right;">1.1</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">1.0</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">税効果会計適用後の法人税等の負担率</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">56.6</td> </tr> </table>	法定実効税率	38.0%	(調整)		交際費等永久に損金に算入されない項目	8.9	受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.7	住民税均等割額	5.4	過年度法人税等	2.9	評価性引当額の増減額	1.1	その他	1.0	税効果会計適用後の法人税等の負担率	56.6	<p>2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">法定実効税率</td> <td style="text-align: right;">38.0%</td> </tr> <tr> <td colspan="2">(調整)</td> </tr> <tr> <td>交際費等永久に損金に算入されない項目</td> <td style="text-align: right;">4.7</td> </tr> <tr> <td>受取配当金等永久に益金に算入されない項目</td> <td style="text-align: right;">0.4</td> </tr> <tr> <td>住民税均等割額</td> <td style="text-align: right;">2.7</td> </tr> <tr> <td>過年度法人税等</td> <td style="text-align: right;">0.6</td> </tr> <tr> <td>復興特別法人税廃止に伴う差異</td> <td style="text-align: right;">4.2</td> </tr> <tr> <td>評価性引当額の増減額</td> <td style="text-align: right;">0.7</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">0.7</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">税効果会計適用後の法人税等の負担率</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">50.1</td> </tr> </table> <p>3 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正</p> <p>「所得税法等の一部を改正する法律」(平成26年法律第10号)が平成26年3月31日に公布され、平成26年4月1日以後に開始する連結会計年度から復興特別法人税が課されないことになりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は、平成26年4月1日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異については従来の38.0%から35.6%になります。</p> <p>この税率変更により、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)は83百万円減少し、法人税等調整額が同額増加しております。</p>	法定実効税率	38.0%	(調整)		交際費等永久に損金に算入されない項目	4.7	受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.4	住民税均等割額	2.7	過年度法人税等	0.6	復興特別法人税廃止に伴う差異	4.2	評価性引当額の増減額	0.7	その他	0.7	税効果会計適用後の法人税等の負担率	50.1
法定実効税率	38.0%																																						
(調整)																																							
交際費等永久に損金に算入されない項目	8.9																																						
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.7																																						
住民税均等割額	5.4																																						
過年度法人税等	2.9																																						
評価性引当額の増減額	1.1																																						
その他	1.0																																						
税効果会計適用後の法人税等の負担率	56.6																																						
法定実効税率	38.0%																																						
(調整)																																							
交際費等永久に損金に算入されない項目	4.7																																						
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.4																																						
住民税均等割額	2.7																																						
過年度法人税等	0.6																																						
復興特別法人税廃止に伴う差異	4.2																																						
評価性引当額の増減額	0.7																																						
その他	0.7																																						
税効果会計適用後の法人税等の負担率	50.1																																						

(資産除去債務関係)

前連結会計年度(平成25年3月31日)

(1) 資産除去債務のうち、連結貸借対照表に計上しているもの

当該資産除去債務の概要

当社グループは、本社事務所の賃貸借契約に伴う原状回復義務を、資産除去債務と認識しておりますが、資産除去債務の負債計上に代えて、不動産賃貸借契約に関連して支出した敷金及び保証金の回収が最終的に見込めないと認められる金額を合理的に見積もったうえ、そのうち当連結会計年度の負担に属する金額を費用計上する方法によっております。

当該資産除去債務の金額の算定の方法

当該資産除去債務の算定に当たっては、使用見込期間を当該賃貸借契約の期間に応じて10年と見積もり、割引率は主に0.459%を使用しております。

当連結会計年度における当該資産除去債務の総額の増減

当連結会計年度において、敷金の回収が最終的に見込めないと認められる金額として見積もった金額は30百万円であります。

(2) 資産除去債務のうち、連結貸借対照表に計上している以外のもの

当社グループは上記以外にも事務所等を賃借しており、不動産賃貸借契約に基づき、退去時における原状回復に係る債務を有しておりますが、当該資産に関連する賃借資産の使用期間が明確でなく、現在のところ移転等も予定されていないことから、資産除去債務を合理的に見積もることができず、当該債務に見合う資産除去債務を計上しておりません。

当連結会計年度（平成26年3月31日）

（1）資産除去債務のうち、連結貸借対照表に計上しているもの

当該資産除去債務の概要

当社グループは、本社事務所の賃貸借契約に伴う原状回復義務を、資産除去債務と認識しておりますが、資産除去債務の負債計上に代えて、不動産賃貸借契約に関連して支出した敷金及び保証金の回収が最終的に見込めないと認められる金額を合理的に見積もったうえ、そのうち当連結会計年度の負担に属する金額を費用計上する方法によっております。

当該資産除去債務の金額の算定の方法

当該資産除去債務の算定に当たっては、使用見込期間を当該賃貸借契約の期間に応じて10年と見積もり、割引率は主に0.459%を使用しております。

当連結会計年度における当該資産除去債務の総額の増減

当連結会計年度において、敷金の回収が最終的に見込めないと認められる金額として見積もった金額は16百万円であります。

（2）資産除去債務のうち、連結貸借対照表に計上している以外のもの

当社グループは上記以外にも事務所等を賃借しており、不動産賃貸借契約に基づき、退去時における原状回復に係る債務を有しておりますが、当該資産に関連する賃借資産の使用期間が明確でなく、現在のところ移転等も予定されていないことから、資産除去債務を合理的に見積もることができず、当該債務に見合う資産除去債務を計上しておりません。

（賃貸等不動産関係）

賃貸等不動産の総額に重要性が乏しいため、その注記を省略しております。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務諸表が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、情報ネットワークシステムサービスに係る事業を営んでおります。当社及び当社の連結子会社は、それぞれ独立した経営単位として事業を営んでいることから、お客さまに提供するサービス及び製品の内容等の経済的特性の類似性により事業のセグメントを集約し、「情報ネットワークソリューションサービス」・「電子デバイス」の2つの報告セグメントとしております。各セグメントに属する事業は以下のとおりです。

[情報ネットワークソリューションサービス]

IT基盤に係わるビジネスでは、プライベートクラウド、企業ネットワーク、ユニファイドコミュニケーション、コンタクトセンタ、スマートデバイスの導入、設計、構築からサービスマネジメントの販売や、各業種（自治体、通信キャリア、電力、ガス、金融、製造、流通・サービス、ヘルスケア、福祉・介護等）のお客さまへ最適なソリューションサービスをワンストップでご提供しております。特に低予算で導入できる業種・業務に特化型システム『KitFitシリーズ』を中心としたソリューションビジネスや自社タブレット端末『CAMELUSシリーズ』に注力し差別化製品の提供を行っております。

[電子デバイス]

半導体（カスタムLSI、マイコン）、メモリ、電子部品（リレー、コネクタ）、液晶パネル、直流FAN、ARMツールの販売ならびにASIC・マイコンの受託設計開発を行っております。また、HDD、組込サーバ機器、サプライ用品を販売しております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部売上高及び振替高は第三者間取引価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報
前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2、 3、4	連結 財務諸表 計上額 (注)5
	情報ネット ワークソ リューション サービス	電子デバ イス	計				
売上高							
外部顧客への売上高	77,646	20,880	98,526	2,124	100,651	-	100,651
セグメント間の内部 売上高又は振替高	64	279	343	336	680	680	-
計	77,710	21,160	98,870	2,461	101,332	680	100,651
セグメント利益	964	5	958	28	930	15	945
セグメント資産	30,581	20,494	51,076	1,642	52,718	11,317	64,036
セグメント負債	35,695	9,270	44,965	1,533	46,498	507	45,991
その他の項目							
減価償却費	749	50	800	2	802	-	802
のれんの償却額	93	-	93	8	101	-	101
減損損失	-	18	18	3	22	-	22
有形固定資産及び無 形固定資産の増加額	1,801	28	1,829	-	1,829	-	1,829

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、空調機器の販売施工や環境装置、計測制御機器の販売及び人材派遣業等を営んでおります。

2 セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去であります。

3 セグメント資産の調整額は、セグメント間取引消去額及び提出会社における運用資金、長期投資資金及び管理部門に係る資産等であります。

4 セグメント負債の調整額は、セグメント間取引消去額及び配賦不能な負ののれんであります。

5 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2、 3、4	連結 財務諸表 計上額 (注)5
	情報ネット ワークソ リューション サービス	電子デバ イス	計				
売上高							
外部顧客への売上高	84,623	23,929	108,552	2,118	110,670	-	110,670
セグメント間の内部 売上高又は振替高	62	367	430	313	743	743	-
計	84,686	24,296	108,982	2,431	111,414	743	110,670
セグメント利益	1,850	227	2,077	24	2,052	12	2,065
セグメント資産	38,793	20,480	59,273	1,381	60,655	9,392	70,048
セグメント負債	39,803	10,519	50,322	1,265	51,588	525	51,063
その他の項目							
減価償却費	1,008	49	1,057	1	1,059	-	1,059
のれんの償却額	93	-	93	-	93	-	93
減損損失	8	-	8	-	8	-	8
有形固定資産及び無 形固定資産の増加額	1,623	12	1,635	0	1,635	-	1,635

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、空調機器の販売施工や環境装置、計測制御機器の販売及び人材派遣業等を営んでおります。

2 セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去であります。

3 セグメント資産の調整額は、セグメント間取引消去額及び提出会社における運用資金、長期投資資金及び管理部門に係る資産等であります。

4 セグメント負債の調整額は、セグメント間取引消去額及び配賦不能な負ののれんであります。

5 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

1．製品及びサービスごとの情報

セグメント情報の中で同様の情報が開示されているため、記載を省略しております。

2．地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3．主要な顧客ごとの情報

主要な顧客ごとの情報につきましては、全ての顧客について、販売実績が連結損益計算書の売上高の10%未満であるため、その記載を省略しております。

当連結会計年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

1．製品及びサービスごとの情報

セグメント情報の中で同様の情報が開示されているため、記載を省略しております。

2．地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3．主要な顧客ごとの情報

主要な顧客ごとの情報につきましては、全ての顧客について、販売実績が連結損益計算書の売上高の10%未満であるため、その記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

当連結会計年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

（単位：百万円）

	情報ネットワーク ソリューション サービス	電子デバイス	その他	全社・消去	合計
当期末残高	262	-	-	-	262

（注）のれんの償却額についてはセグメント情報の中で同様の情報が開示されているため、記載を省略しております。

平成22年4月1日前行われた企業結合により発生した負ののれんの償却額及び未償却残高は、以下のとおりであります。

（単位：百万円）

	情報ネットワーク ソリューション サービス	電子デバイス	その他	全社・消去	合計
当期償却額	-	-	-	34	34
当期末残高	-	-	-	0	0

当連結会計年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

（単位：百万円）

	情報ネットワーク ソリューション サービス	電子デバイス	その他	全社・消去	合計
当期末残高	168	-	-	-	168

（注）のれんの償却額についてはセグメント情報の中で同様の情報が開示されているため、記載を省略しております。

平成22年4月1日前行われた企業結合により発生した負ののれんの償却額及び未償却残高は、以下のとおりであります。

（単位：百万円）

	情報ネットワーク ソリューション サービス	電子デバイス	その他	全社・消去	合計
当期償却額	-	-	-	0	0
当期末残高	-	-	-	-	-

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

関連当事者との取引

前連結会計年度（自平成24年4月1日 至平成25年3月31日）

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等の場合に限る。）等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金（百万円）	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合（％）	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（百万円）	科目	期末残高（百万円）
その他の関係会社	富士通株	神奈川県川崎市中原区	324,625	情報処理システム、通信システム及び電子デバイスの製造・販売並びにこれらに関するサポート	（被所有） 直接 20.3	請負作業等当社取扱商品の仕入等役員の兼任	プログラムの開発等	1,384	売掛金	469
							機器の仕入等	32,306	買掛金	8,832

(注) 1 取引条件につきましては、富士通パートナー契約に基づき決定しております。

2 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

当連結会計年度（自平成25年4月1日 至平成26年3月31日）

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等の場合に限る。）等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金（百万円）	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合（％）	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（百万円）	科目	期末残高（百万円）
その他の関係会社	富士通株	神奈川県川崎市中原区	324,625	情報処理システム、通信システム及び電子デバイスの製造・販売並びにこれらに関するサポート	（被所有） 直接 20.3	請負作業等当社取扱商品の仕入等役員の兼任	プログラムの開発等	1,624	売掛金	470
							機器の仕入等	29,687	買掛金	7,700

(注) 1 取引条件につきましては、富士通パートナー契約に基づき決定しております。

2 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

(2) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と同一の親会社をもつ会社等及び連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金（百万円）	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合（％）	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（百万円）	科目	期末残高（百万円）
その他の関係会社が議決権の過半数を所有している会社（当該会社の子会社を含む）	富士通エレクトロニクス株（注）	東京都新宿区	3,695	電子デバイス製品の設計・開発及び販売	-	取扱商品の仕入	半導体の仕入	1,901	買掛金	941

(注) 1 取引条件につきましては、富士通パートナー契約に基づき決定しております。

2 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

3 富士通株の子会社である富士通マイクロエレクトロニクス株の子会社であります。

(1株当たり情報)

前連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)		当連結会計年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)	
1株当たり純資産額	1,513円02銭	1株当たり純資産額	1,572円53銭
1株当たり当期純利益金額	34円37銭	1株当たり当期純利益金額	81円79銭
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。		なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	

(注) 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

なお、「期中平均株式数」は、従業員持株ESOP信託口が所有する当社株式を控除しております。

	前連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)
当期純利益(百万円)	446	982
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(百万円)	446	982
期中平均株式数(千株)	12,977	12,008

(重要な後発事象)

(退職給付制度の一部移行について)

当社は平成26年4月1日より退職給付年金制度の一部について確定拠出年金制度に移行いたしました。

この移行に伴う会計処理については、「退職給付制度間の移行等に関する会計処理」(企業会計基準適用指針第1号)を適用しております。

なお、本移行に伴い特別利益123百万円を計上する見込みであります。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当連結会計年度期首残高(百万円)	当連結会計年度末残高(百万円)	平均利率(%)	返済期限
短期借入金	10,793	7,804	0.96	-
1年以内に返済予定の長期借入金	2,836	96	0.80	-
1年以内に返済予定のリース債務	492	652	1.48	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	190	7,034	0.65	平成27年4月 ~平成29年2月
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	648	1,159	1.48	平成27年4月 ~平成34年1月
その他有利子負債	-	-	-	-
合計	14,960	16,746	-	-

(注)1 「平均利率」については、期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後5年内における1年ごとの返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	96	6,938	-	-
リース債務	509	378	204	61

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2)【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(百万円)	20,202	52,252	72,943	110,670
税金等調整前四半期(当期)純利益金額又は税金等調整前四半期純損失金額()(百万円)	1,139	13	638	1,969
当期純利益金額又は四半期純損失金額()(百万円)	657	19	389	982
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額()(円)	55.02	1.63	32.50	81.79

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額()(円)	55.02	53.14	30.77	113.67

2【財務諸表等】

(1)【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4 13,946	4 9,556
受取手形	6 1,161	1,519
売掛金	3, 6 16,774	3 25,931
たな卸資産	1, 2 7,353	1, 2 6,744
前渡金	233	276
前払費用	253	228
繰延税金資産	712	801
未収入金	509	355
立替金	14	12
その他	170	306
貸倒引当金	12	11
流動資産合計	41,116	45,721
固定資産		
有形固定資産		
建物	1,536	1,521
減価償却累計額	679	709
建物(純額)	856	811
構築物	0	0
減価償却累計額	0	0
構築物(純額)	0	0
機械及び装置	7	6
減価償却累計額	6	5
機械及び装置(純額)	1	0
車両運搬具	1	1
減価償却累計額	1	1
車両運搬具(純額)	0	0
工具、器具及び備品	553	554
減価償却累計額	474	487
工具、器具及び備品(純額)	79	66
土地	2,320	2,319
リース資産	918	1,188
減価償却累計額	415	510
リース資産(純額)	503	678
建設仮勘定	778	490
有形固定資産合計	4,540	4,368
無形固定資産		
商標権	1	1
ソフトウェア	419	499
施設利用権	0	0
電話加入権	47	47
リース資産	488	862
無形固定資産合計	958	1,410

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
投資その他の資産		
投資有価証券	4,358	4,367
関係会社株式	1,534	1,602
長期貸付金	146	98
関係会社長期貸付金	692	867
破産更生債権等	23	43
長期前払費用	6	4
繰延税金資産	2,079	2,127
敷金	539	471
会員権	78	77
その他	464	582
貸倒引当金	427	424
投資その他の資産合計	8,727	9,419
固定資産合計	14,226	15,198
資産合計	55,342	60,919
負債の部		
流動負債		
支払手形	6,470	453
買掛金	3,416,594	3,418,089
短期借入金	9,855	6,775
1年内返済予定の長期借入金	2,576	76
リース債務	481	650
未払金	930	1,036
未払費用	608	653
未払法人税等	273	861
未払消費税等	114	317
前受金	495	478
預り金	112	120
賞与引当金	1,378	1,575
受注損失引当金	2152	2124
その他	5	1
流動負債合計	34,049	31,215
固定負債		
長期借入金	190	6,814
リース債務	647	1,155
長期未払金	122	93
退職給付引当金	3,869	4,244
負ののれん	0	-
その他	5	5
固定負債合計	4,834	12,312
負債合計	38,883	43,527

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	9,812	9,812
資本剰余金		
資本準備金	2,584	2,584
その他資本剰余金	1,517	1,515
資本剰余金合計	4,102	4,099
利益剰余金		
その他利益剰余金		
別途積立金	4,900	4,900
繰越利益剰余金	7,734	8,353
利益剰余金合計	12,634	13,253
自己株式	10,560	10,445
株主資本合計	15,989	16,721
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	469	670
繰延ヘッジ損益	0	0
評価・換算差額等合計	470	670
純資産合計	16,459	17,391
負債純資産合計	55,342	60,919

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
売上高	89,079	97,094
売上原価	4 75,621	4 82,107
売上総利益	13,458	14,987
販売費及び一般管理費	1, 2 12,872	1, 2 13,499
営業利益	585	1,488
営業外収益		
受取利息	26	12
受取配当金	3 412	3 105
不動産賃貸料	15	15
受取保険金	-	62
保険配当金	63	42
その他	92	69
営業外収益合計	610	307
営業外費用		
支払利息	194	151
支払手数料	119	52
その他	54	71
営業外費用合計	367	275
経常利益	827	1,519
特別利益		
固定資産売却益	-	5 25
投資有価証券売却益	598	34
関係会社株式売却益	-	0
災害損失引当金戻入額	17	-
特別利益合計	615	60
特別損失		
ゴルフ会員権評価損	-	0
たな卸資産除却損	-	15
固定資産除却損	6 2	6 2
減損損失	8 18	8 8
投資有価証券評価損	-	4
投資有価証券売却損	9	-
事務所移転費用	-	0
特別退職金	7 122	7 121
仕組預金解約損	237	-
特別損失合計	391	152
税引前当期純利益	1,052	1,427
法人税、住民税及び事業税	478	1,001
過年度法人税等	29	-
法人税等調整額	78	289
法人税等合計	429	711
当期純利益	623	715

【売上原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)		当事業年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)	
		金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
機器及び材料費		43,420	57.4	45,658	55.6
労務費		5,630	7.4	6,320	7.7
外注費		25,091	33.2	28,630	34.9
経費		1,478	2.0	1,498	1.8
計		75,621	100.0	82,107	100.0

前事業年度(自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)

(注) 経費のうち主なものは次のとおりであります。

科目	金額(百万円)
地代家賃	449
旅費交通費	210

(原価計算の方法)

当社における原価計算の方法は、実際原価による個別原価計算を採用しており、機器及び材料費、労務費、外注費ならびに経費の各原価要素に分類し把握しております。なお、間接諸費用は配賦基準に従って合理的に配賦しております。

当事業年度(自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)

(注) 経費のうち主なものは次のとおりであります。

科目	金額(百万円)
地代家賃	460
旅費交通費	249

(原価計算の方法)

当社における原価計算の方法は、実際原価による個別原価計算を採用しており、機器及び材料費、労務費、外注費ならびに経費の各原価要素に分類し把握しております。なお、間接諸費用は配賦基準に従って合理的に配賦しております。

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

(単位：百万円)

	株主資本								自己株式	株主資本合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			利益剰余金合計		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金					
					別途積立金	繰越利益剰余金				
当期首残高	9,812	2,584	1,519	4,104	4,900	7,259	12,159	345	25,730	
当期変動額										
剰余金の配当						148	148		148	
当期純利益						623	623		623	
自己株式の取得								10,317	10,317	
自己株式の処分			1	1				102	100	
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）										
当期変動額合計	-	-	1	1	-	475	475	10,214	9,741	
当期末残高	9,812	2,584	1,517	4,102	4,900	7,734	12,634	10,560	15,989	

	評価・換算差額等			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算差額等合計	
当期首残高	22	-	22	25,752
当期変動額				
剰余金の配当				148
当期純利益				623
自己株式の取得				10,317
自己株式の処分				100
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	447	0	447	447
当期変動額合計	447	0	447	9,293
当期末残高	469	0	470	16,459

当事業年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

(単位：百万円)

	株主資本								自己株式	株主資本合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金					
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金		利益剰余金合計			
					別途積立金	繰越利益剰余金				
当期首残高	9,812	2,584	1,517	4,102	4,900	7,734	12,634	10,560	15,989	
当期変動額										
剰余金の配当						95	95		95	
当期純利益						715	715		715	
自己株式の取得								3	3	
自己株式の処分			2	2				118	115	
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）										
当期変動額合計	-	-	2	2	-	619	619	114	732	
当期末残高	9,812	2,584	1,515	4,099	4,900	8,353	13,253	10,445	16,721	

	評価・換算差額等			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算差額等合計	
当期首残高	469	0	470	16,459
当期変動額				
剰余金の配当				95
当期純利益				715
自己株式の取得				3
自己株式の処分				115
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	200	0	200	200
当期変動額合計	200	0	200	932
当期末残高	670	0	670	17,391

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

時価のあるもの 決算期末日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定)

時価のないもの 移動平均法による原価法

2. デリバティブ等の評価基準及び評価方法

時価法

3. たな卸資産の評価基準及び評価方法

仕掛品 個別法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

商品及び製品、機器及び材料 先入先出法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

4. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法を採用しております。(ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)は定額法によっております。)

なお主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 3～50年

機械装置 3～10年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

また、販売用ソフトウェアについては当該販売用ソフトウェアの販売可能期間で均等償却を行っております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(4) 長期前払費用

定額法を採用しております。

5. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

6. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売掛金、貸付金等の債権の貸倒れによる損失に備えるため、回収不能見込額を計上しております。

一般債権

貸倒実績率法によっております。

貸倒懸念債権及び破産更生債権

財務内容評価法によっております。

(2) 賞与引当金

主として従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、その支給見込額に基づき当事業年度に見合う分を計上しております。

(3) 受注損失引当金

システムソリューションの請負等に係る受注案件のうち、当事業年度末で将来に損失が発生する可能性が高いと見込まれ、かつ当該損失額を合理的に見積ることが可能なものについては、受注損失に備えるため、将来の損失見積額を計上しております。

(4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当事業年度末において発生している額を計上しております。

なお、会計基準変更時差異（5,939百万円）については15年による按分額を費用処理しております。

過去勤務費用は、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（主として15年）による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（主として15年）による定額法によりそれぞれ発生翌事業年度より費用処理しております。

7. 重要な収益及び費用の計上基準

完成工事高及び完成工事原価の計上基準

当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる開発契約

工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）

その他の開発契約

検収基準

8. ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

為替予約が付されている外貨建金銭債権債務については、振当処理を行っております。また、特例処理の要件を満たしている金利スワップについては特例処理によっております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

- a ヘッジ手段 為替予約
ヘッジ対象 外貨建金銭債権債務
- b ヘッジ手段 金利スワップ
ヘッジ対象 借入金

(3) ヘッジ方針

ヘッジ対象に係る将来の為替相場の変動リスク及び金利変動リスクを回避する目的で、為替予約取引及び金利スワップ取引を行っております。

(4) ヘッジ有効性評価の方法

為替予約の締結時に、リスク管理方針に従って、米貨建による同一金額で同一期日の為替予約をそれぞれ振当てているため、その後の為替相場の変動による相関関係は完全に確保されており、その判定をもって有効性の判定に代えております。（決算日における有効性の評価を省略しております。）また、金利スワップ取引については、特例処理であるため有効性の評価を省略しております。

9. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理の方法

財務諸表において、未認識数理計算上の差異、未認識過去勤務費用及び会計基準変更時差異の貸借対照表における取扱が連結財務諸表と異なっております。財務諸表上、退職給付債務に未認識数理計算上の差異を加減した額から年金資産を控除した額を退職給付引当金又は前払年金費用に計上しております。

(2) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

(貸借対照表関係)

1 たな卸資産の内訳は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
商品及び製品	2,352百万円	2,593百万円
仕掛品	3,381	2,989
原材料及び貯蔵品	1,620	1,160

2 システムソリューションの請負等に係る受注案件のうち、損失が見込まれる受注案件に係るたな卸資産と受注損失引当金は相殺せずに両建てで表示しております。損失発生が見込まれる受注案件に係るたな卸資産のうち、受注損失引当金に対応する額は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
仕掛品	227百万円	217百万円

3 関係会社に係る注記

区分掲記されたもの以外で関係会社に対する主なものは次のとおりであります。

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
売掛金	572百万円	825百万円
買掛金	10,224	9,635

4 担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
現金及び預金	7百万円	7百万円
投資有価証券	68	69
上記に対応する債務		
仕入債務	122	136

5 保証債務

(1) 関係会社である(株)都築ソフトウェアの銀行借入金に対する保証

前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
260百万円	240百万円

(2) 関係会社である都築アメニティ(株)の仕入債務に対する保証

前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
- 百万円	40百万円

(3) 関係会社である(株)三築ツツキシステムの仕入債務に対する保証

前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
87百万円	172百万円

(4) 関係会社である都築電産香港有限公司の銀行借入金に対する保証

前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
559百万円	636百万円

(5) 関係会社である都築電産貿易(上海)有限公司の銀行借入金に対する保証

前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
75百万円	81百万円

(6) 従業員の銀行借入金(住宅資金等)に対する保証

前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
486百万円	412百万円

6 期末日満期手形及び売掛金の処理

期末日満期手形及び売掛金の会計処理は手形交換日または実際の入金日をもって決済処理しております。なお、前事業年度の末日は金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形及び期末期日指定振込等の売掛金が期末残高に含まれております。

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
受取手形	69百万円	- 百万円
売掛金	519	-
支払手形	83	-

(損益計算書関係)

- 1 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度60%、当事業年度60%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度40%、当事業年度40%であります。

販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
旅費交通費	424百万円	442百万円
従業員給料手当	6,197	6,418
退職給付引当金繰入額	1,173	1,170
賞与引当金繰入額	662	852
法定福利費	884	926
地代及び家賃	692	632
減価償却費	335	477
貸倒引当金繰入額	2	2

- 2 一般管理費に含まれる研究開発費

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
	77百万円	140百万円

- 3 関係会社からの受取配当金

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
	354百万円	36百万円

- 4 売上原価に含まれている受注損失引当金繰入額

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
	149百万円	124百万円

- 5 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
建物及び構築物	- 百万円	25百万円
計	-	25

- 6 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
建物及び構築物	1百万円	0百万円
機械装置及び運搬具	0	0
工具器具及び備品	0	2
投資その他の資産	-	0
計	2	2

- 7 特別退職金の主な内容は、早期退職優遇措置による退職者の特別加算金等であります。

8 減損損失

前事業年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

場所	用途	種類	減損損失（百万円）
東京都調布市	技術開発センター	土地及び建物	18

当社は、管理会計上の区分に基づきグルーピングを行っております。土地及び建物については収益性が低下しており、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として認識しました。回収可能価額は正味売却価額により測定しており、その評価額は、固定資産税評価額等を基礎に、合理的な調整を行って評価しております。また、のれんについては売却や他の転用が困難なため零としています。

当事業年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

場所	用途	種類	減損損失（百万円）
北海道千歳市	社宅	建物	8

当社は、管理会計上の区分に基づきグルーピングを行っております。上記建物については、当初の予定より著しく早期に処分されると見込まれた資産について帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（8百万円）として認識しました。なお、当該資産の回収可能価額は正味売却価額により測定しており、その評価額は、不動産鑑定士による査定額を基準にして評価しております。

（株主資本等変動計算書関係）

前事業年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数 （千株）	当事業年度増加株式数 （千株）	当事業年度減少株式数 （千株）	当事業年度末株式数 （千株）
普通株式（注）1、2	484	13,400	134	13,751
合計	484	13,400	134	13,751

（注）1 当事業年度末の株式数には、従業員持株ESOP信託が保有する当社株式279千株を含めて記載しております。

2 普通株式の自己株式の増加数13,400千株の内訳は、公開買付による増加13,393千株、単元未満株式の買取による増加7千株であります。また、普通株式の自己株式の株式数の減少134千株は、従業員持株ESOP信託口による当社持株会への当社保有自己株式の売却134千株であります。

当事業年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数 （千株）	当事業年度増加株式数 （千株）	当事業年度減少株式数 （千株）	当事業年度末株式数 （千株）
普通株式（注）1、2	13,751	7	153	13,605
合計	13,751	7	153	13,605

（注）1 当事業年度末の株式数には、従業員持株ESOP信託が保有する当社株式126千株を含めて記載しております。

2 普通株式の自己株式の増加数7千株の内訳は、単元未満株式の買取による増加7千株であります。また、普通株式の自己株式の株式数の減少153千株は、従業員持株ESOP信託口による当社持株会への当社保有自己株式の売却153千株、単元未満株式の売渡による減少0千株であります。

（有価証券関係）

前事業年度（平成25年3月31日）

子会社株式及び関連会社株式

子会社株式及び関連会社株式（貸借対照表計上額 子会社株式1,426百万円、関連会社株式3百万円）は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

当事業年度（平成26年3月31日）

子会社株式及び関連会社株式

子会社株式及び関連会社株式（貸借対照表計上額 子会社株式1,426百万円、関連会社株式3百万円）は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

前事業年度 (平成25年3月31日)		当事業年度 (平成26年3月31日)	
1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳		1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳	
繰延税金資産(流動)		繰延税金資産(流動)	
賞与引当金損金算入限度超過額	523百万円	賞与引当金損金算入限度超過額	560百万円
未払費用否認額	64	未払費用否認額	72
未払事業税等否認額	44	未払事業税等否認額	79
受注損失引当金否認額	57	受注損失引当金否認額	44
たな卸資産評価損否認額	12	その他	52
その他	8		
	小計		小計
	712		809
評価性引当額	-	評価性引当額	8
繰延税金資産(流動)	計	繰延税金資産(流動)	計
	712		801
繰延税金資産(固定)		繰延税金資産(固定)	
投資有価証券評価損否認額	56	投資有価証券評価損否認額	56
退職給付費用否認額	2,090	退職給付費用否認額	2,223
貸倒引当金繰入限度超過額	106	貸倒引当金繰入限度超過額	149
減価償却(無形固定資産)超過額	13	会員権評価損否認額	40
会員権評価損否認額	40	関係会社株式評価損否認額	40
関係会社株式評価損否認額	40	減損損失否認額	355
減損損失否認額	355	長期未払金否認額	33
長期未払金否認額	44	敷金否認額	89
敷金否認額	89	建設仮勘定否認額	41
その他	20	その他	27
	小計		小計
	2,858		3,057
評価性引当額	595	評価性引当額	594
繰延税金資産(固定)	計	繰延税金資産(固定)	計
	2,262		2,463
繰延税金負債(流動)		繰延税金負債(流動)	
繰延ヘッジ損益	0	繰延ヘッジ損益	0
繰延税金負債(流動)	計	繰延税金負債(流動)	計
	0		0
繰延税金負債(固定)		繰延税金負債(固定)	
その他有価証券評価差額金	182	その他有価証券評価差額金	335
繰延税金負債(固定)	計	繰延税金負債(固定)	計
	182		335
繰延税金資産の純額	合計	繰延税金資産の純額	合計
	2,791		2,929
2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳		2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳	
法定実効税率	38.0%	法定実効税率	38.0%
(調整)		(調整)	
交際費等永久に損金に算入されない項目	7.0	交際費等永久に損金に算入されない項目	5.1
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	13.5	受取配当金等永久に益金に算入されない項目	1.5
住民税均等割額	3.9	住民税均等割額	2.8
過年度法人税等	5.2	過年度法人税等	1.0
評価性引当額の増減額	1.6	復興特別法人税廃止に伴う差異	4.5
その他	1.5	評価性引当額の増減額	0.7
税効果会計適用後の法人税等の負担率	40.8	その他	1.2
		税効果会計適用後の法人税等の負担率	49.9

前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
	<p>3 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正 「所得税法等の一部を改正する法律」(平成26年法律第10号)が平成26年3月31日に公布され、平成26年4月1日以後に開始する事業年度から復興特別法人税が課されないことになりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は、平成26年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については従来の38.0%から35.6%になります。</p> <p>この税率変更により、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)は64百万円減少し、法人税等調整額が同額増加しております。</p>

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

前事業年度(平成25年3月31日)

(1) 資産除去債務のうち、貸借対照表に計上しているもの

当該資産除去債務の概要

当社は、本社事務所の賃貸借契約に伴う原状回復義務を、資産除去債務と認識しておりますが、資産除去債務の負債計上に代えて、不動産賃貸借契約に関連して支出した敷金及び保証金の回収が最終的に見込めないと認められる金額を合理的に見積もったうえ、そのうち当事業年度の負担に属する金額を費用計上する方法によっております。

当該資産除去債務の金額の算定の方法

当該資産除去債務の算定に当たっては、使用見込期間を当該賃貸借契約の期間に応じて10年と見積もり、割引率は0.459%を使用しております。

当事業年度における当該資産除去債務の総額の増減

当事業年度において、敷金の回収が最終的に見込めないと認められる金額として見積もった金額は28百万円であります。

(2) 資産除去債務のうち、貸借対照表に計上している以外のもの

当社は、上記以外にも事務所等を賃借しており、不動産賃貸借契約に基づき、退去時における原状回復に係る債務を有しておりますが、当該資産に関連する賃借資産の使用期間が明確でなく、現在のところ移転等も予定されていないことから、資産除去債務を合理的に見積もることができず、当該債務に見合う資産除去債務を計上しておりません。

当事業年度（平成26年3月31日）

（1）資産除去債務のうち、貸借対照表に計上しているもの

当該資産除去債務の概要

当社は、本社事務所の賃貸借契約に伴う原状回復義務を、資産除去債務と認識しておりますが、資産除去債務の負債計上に代えて、不動産賃貸借契約に関連して支出した敷金及び保証金の回収が最終的に見込めないと認められる金額を合理的に見積もったうえ、そのうち当事業年度の負担に属する金額を費用計上する方法によっております。

当該資産除去債務の金額の算定の方法

当該資産除去債務の算定に当たっては、使用見込期間を当該賃貸借契約の期間に応じて10年と見積もり、割引率は0.459%を使用しております。

当事業年度における当該資産除去債務の総額の増減

当事業年度において、敷金の回収が最終的に見込めないと認められる金額として見積もった金額は16百万円であります。

（2）資産除去債務のうち、貸借対照表に計上している以外のもの

当社は、上記以外にも事務所等を賃借しており、不動産賃貸借契約に基づき、退去時における原状回復に係る債務を有しておりますが、当該資産に関連する賃借資産の使用期間が明確でなく、現在のところ移転等も予定されていないことから、資産除去債務を合理的に見積もることができず、当該債務に見合う資産除去債務を計上しておりません。

（1株当たり情報）

前事業年度 （自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）		当事業年度 （自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）	
1株当たり純資産額	1,380円06銭	1株当たり純資産額	1,440円55銭
1株当たり当期純利益金額	48円02銭	1株当たり当期純利益金額	59円58銭
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。		なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	

（注） 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 （自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）	当事業年度 （自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）
当期純利益（百万円）	623	715
普通株主に帰属しない金額（百万円）	-	-
普通株式に係る当期純利益（百万円）	623	715
普通株式の期中平均株式数（千株）	12,977	12,008

（重要な後発事象）

（退職給付制度の一部移行について）

当社は平成26年4月1日より退職給付年金制度の一部について確定拠出年金制度に移行いたしました。

この移行に伴う会計処理については、「退職給付制度間の移行等に関する会計処理」（企業会計基準適用指針第1号）を適用しております。

なお、本移行に伴い特別利益123百万円を計上する見込みであります。

【附属明細表】
【有価証券明細表】
【株式】

		銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)
投資有価証券	その他有 価証券	(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	952,850.00	540
		三菱電機(株)	298,000.00	346
		(株)ツムラ	51,312.00	127
		(株)丸久	120,146.00	123
		(株)みずほフィナンシャルグループ	532,043.00	108
		オムロン(株)	24,000.00	102
		(株)三井住友フィナンシャルグループ	23,140.00	102
		第一生命保険(株)	58,800.00	88
		大和ハウス工業(株)	45,661.00	79
		(株)トーモク	260,000.00	76
		その他78銘柄	2,698,300.00	1,123
		小計	5,064,252.00	2,817
		計	5,064,252.00	2,817

【債券】

		銘柄	券面総額 (百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)
投資有価証券	その他有 価証券	オーストラリアコモンウェルス銀行ユーロ円債	500	455
		BNPパリバ銀行ユーロ円債	300	238
		ジュピター・キャピタル2007-18ユーロ円債	300	280
		小計	1,100	974
		計	1,100	974

【その他】

		種類及び銘柄	投資口数等(口)	貸借対照表計上額 (百万円)
投資有価証券	その他有 価証券	(証券投資信託の受益証券) 利回り株チャンス13-03	101,905,994	95
		(証券投資信託の受益証券) アント・リード2号投資事業有限責任組合	2	80
		小計	101,905,996	175
		計	101,905,996	175

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価償却累計額又は償却累計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	1,536	11	26 (8)	1,521	709	46	811
構築物	0	0	-	0	0	0	0
機械及び装置	7	-	0	6	5	0	0
車両運搬具	1	-	-	1	1	0	0
工具、器具及び備品	553	14	13	554	487	24	66
土地	2,320	-	0	2,319	-	-	2,319
リース資産	918	468	198	1,188	510	275	678
建設仮勘定	778	1,136	1,424	490	-	-	490
有形固定資産計	6,116	1,632	1,665 (8)	6,083	1,715	346	4,368
無形固定資産							
商標権	3	0	-	4	2	0	1
ソフトウェア	689	217	21	885	386	138	499
施設利用権	1	-	-	1	1	0	0
電話加入権	47	-	-	47	0	-	47
リース資産	1,206	769	54	1,920	1,058	341	862
無形固定資産計	1,949	987	76	2,860	1,449	480	1,410
長期前払費用	11	1	3	9	5	3	4
繰延資産	-	-	-	-	-	-	-
繰延資産計	-	-	-	-	-	-	-

(注) 1 当期増減額のうち主なものは次のとおりです。

ソフトウェア	増加額(百万円)	217	自社利用システムの開発
建設仮勘定	増加額(百万円)	1,136	リース手配品
建設仮勘定	減少額(百万円)	1,424	リース手配品

2 当期減少額欄の()内は内書きで、減損損失の計上額であります。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	440	435	21	418	435
賞与引当金	1,378	1,575	1,378	-	1,575
受注損失引当金	152	124	152	-	124

(注) 貸倒引当金の当期減少額のその他は洗替額であります。

(2)【主な資産及び負債の内容】

現金及び預金

区分	金額(百万円)
現金	1
預金の種類	
当座預金	305
普通預金	9,076
定期預金	62
外貨預金	77
別段預金	33
計	9,554
合計	9,556

受取手形

相手先別		期日別	
相手先	金額(百万円)	期日	金額(百万円)
日本機器工業(株)	246	1ヶ月以内	366
(株)アサヒ	197	2ヶ月以内	366
(株)湯山製作所	172	3ヶ月以内	332
古野電気(株)	72	4ヶ月以内	348
東京センチュリーリース(株)	62	5ヶ月以内	101
その他	768	6ヶ月以内	3
計	1,519	計	1,519

売掛金

相手先	金額(百万円)
三菱電機(株)	1,652
東京センチュリーリース(株)	1,282
東日本旅客鉄道(株)	761
富士通リース(株)	515
(株)富士通エフサス	499
その他	21,219
計	25,931

売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高 (百万円)	当期発生高 (百万円)	当期回収高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	回収率(%)	滞留期間(日)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A)+(B)} \times 100$	$\frac{(A)+(D)}{2} \div \frac{(B)}{365}$
16,774	101,949	92,786	25,938	78.2	76.5

(注) 消費税等の会計処理は税抜方式を採用しておりますが、上記当期発生高には消費税等が含まれております。

たな卸資産

区分	金額(百万円)
仕掛品	
ネットワークソリューション	372
システムインテグレーション	2,614
デバイス	2
小計	2,989
商品及び製品	
半導体	666
機器	1,621
電子部品	279
サプライ	25
その他	1
小計	2,593
機器及び材料	
電子機器	745
通信機器	390
電子部品	14
機器	1
半導体	0
その他	8
小計	1,160
計	6,744

関係会社株式

区分	金額（百万円）
都築テクノサービス(株)	447
三築ツツキシステム(株)	253
(株)ネクストヴィジョン	244
ツツキインフォテクノ東日本(株)	108
(株)都築ソフトウェア	104
その他	445
計	1,602

支払手形

相手先別		期日別	
相手先	金額（百万円）	期日	金額（百万円）
カシオヒューマンシステムズ(株)	66	1ヶ月以内	115
ニューテック(株)	58	2ヶ月以内	153
サンワサプライ(株)	28	3ヶ月以内	87
東芝ソリューション(株)	26	4ヶ月以内	97
日本圧着端子製造(株)	23	5ヶ月以内	-
その他	250	6ヶ月以内	-
計	453	計	453

買掛金

相手先	金額（百万円）
富士通(株)	7,700
富士通エレクトロニクス(株)	941
都築テクノサービス(株)	881
富士通セミコンダクター(株)	563
(株)富士通マーケティング	494
その他	7,507
計	18,089

短期借入金

借入先	金額（百万円）
(株)三井住友銀行	1,695
(株)みずほ銀行	1,629
(株)三菱東京UFJ銀行	1,595
(株)りそな銀行	596
その他6行	1,260
計	6,775

長期借入金

借入先	金額（百万円）
(株)三菱東京UFJ銀行	3,000
(株)みずほ銀行	2,000
(株)三井住友銀行	1,400
明治安田生命保険(相)	300
三菱UFJ信託銀行(株)	114
計	6,814

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	1,000株
単元未満株式の買取・売渡	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	
買取・売渡手数料	無料
公告掲載方法	当会社の公告は、電子公告により行う。やむを得ない事由により、電子公告 によることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行う。 公告掲載ホームページアドレス http://www.tsuzuki.co.jp/
株主に対する特典	なし

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は会社法第189条第2項各号に掲げる権利、取得請求権付株式の取得を請求する権利ならびに株主の有する株式数に応じ、募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利及び単元未満株式の売渡請求をする権利以外の権利を有しておりません。

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

- | | | | | | |
|-----|-------------|-------------|---|-------------|------------|
| (1) | 有価証券報告書及びその | 事業年度 | 自 | 平成24年4月1日 | 平成25年6月27日 |
| | 添付書類並びに確認書 | (第73期) | 至 | 平成25年3月31日 | 関東財務局長に提出。 |
| (2) | 内部統制報告書及びその | | | | 平成25年6月27日 |
| | 添付書類 | | | | 関東財務局長に提出。 |
| (3) | 四半期報告書及び確認書 | (第74期第1四半期) | 自 | 平成25年4月1日 | 平成25年8月8日 |
| | | | 至 | 平成25年6月30日 | 関東財務局長に提出。 |
| | | (第74期第2四半期) | 自 | 平成25年7月1日 | 平成25年11月7日 |
| | | | 至 | 平成25年9月30日 | 関東財務局長に提出。 |
| | | (第74期第3四半期) | 自 | 平成25年10月1日 | 平成26年2月6日 |
| | | | 至 | 平成25年12月31日 | 関東財務局長に提出。 |
| (4) | 臨時報告書 | | | | 平成25年6月28日 |
| | | | | | 関東財務局長に提出。 |

金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成26年 6月27日

都築電気株式会社
取締役会 御中

太陽 A S G 有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 泉 淳一

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 大矢 昇太

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている都築電気株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、都築電気株式会社及び連結子会社の平成26年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、都築電気株式会社の平成26年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、都築電気株式会社が平成26年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
1. 上記は、監査報告書及び内部統制監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会社が別途保管しております。
 2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成26年6月27日

都築電気株式会社
取締役会 御中

太陽A S G有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 泉 淳一

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 大矢 昇太

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている都築電気株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの第74期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、都築電気株式会社の平成26年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会社が別途保管しております。
 2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。